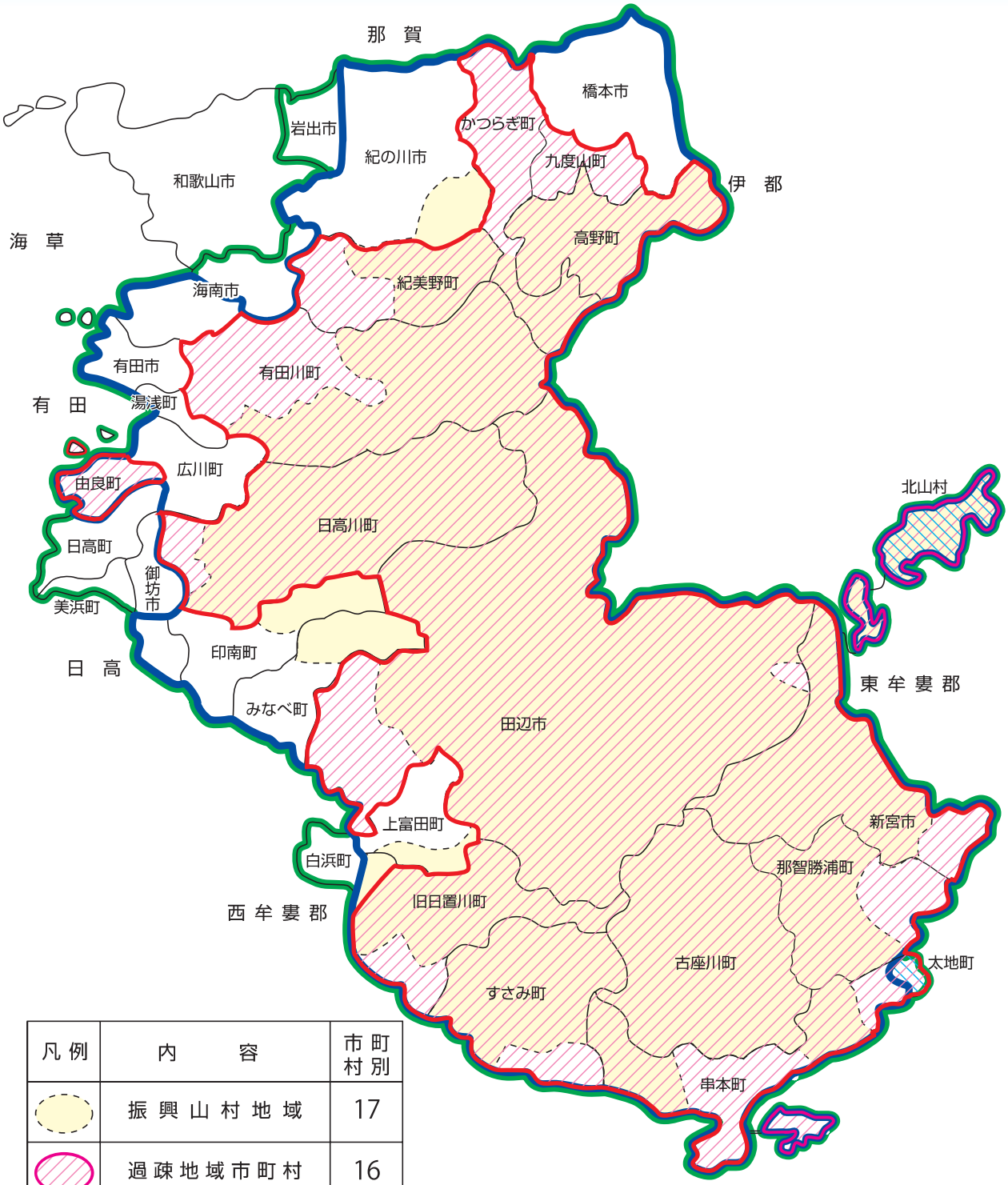
和歌山県の農林水産業



平成24年4月

和歌山県農林水産部

和歌山県の市町村



凡例	内　　容	市町村別
	振興山村地域	17
	過疎地域市町村	16
	農振法対象外地域	2
	特定農山村地域	25
	半　島　地　域	29

平成24年4月1日現在

※特定農山村地域のうち、
海南市（旧下津町）、御坊市（旧名田村）、白浜町（旧北富田村、旧東富田村、旧日置川町）は一部指定

目　　次

利用にあたって…… 1

Ⅰ　和歌山県の農林水産業の特徴…… 3

1　和歌山県農林水産業の主要指標…… 3

2　和歌山県の農業の特徴

1）農業産出額の構成及び生産農業所得…… 4

2）本県基幹作物の全国シェア…… 5

3　和歌山県の林業の特徴

1）森林資源…… 6

2）民有林の森林資源の概況…… 6

3）林家の構成…… 6

4　和歌山県の水産業の特徴

1）漁業種類別漁獲量…… 7

2）魚種別漁獲量…… 7

Ⅱ　和歌山県の農林水産業の動向…… 8

1　農業部門

1）農業指標…… 8

2）農業を担う人々…… 9

3）耕地面積……10

4）農業生産……12

5）農業所得と農業産出額……27

6）農業農村整備事業の基盤整備状況……30

2　林業部門

1）林業を担う経営体（林業経営体）……31

2）森林資源・林業生産基盤……32

3）林業生産……34

4）林業所得と林業産出額……38

3　水産部門

1）水産業を担う人々……39

2）水産業の基盤……40

3）水産業の生産……41

4）主な魚種別漁獲量・生産額の推移……42

Ⅲ　農林水産関係施策を行っている主な課室……43

利用にあたって

Ⅰ）本資料は、公表されている最新の数値を基本に、和歌山県の農林水産業の概要を示したものです。

Ⅱ）公表されている数値の最新年次が全国と和歌山県で異なるなどのため、囲み掲載している「本県農林水産業の全国における位置」等、数値と本編の数値が一致しないものもあります。

Ⅲ）数値等の出典は図の下に（　）書きで示しています。

ただし、「本県農林水産業の全国における位置」は農林水産省統計表に基づいています。また、単位未満の数値は四捨五入、あるいは下記のとおり四捨五入を行っている調査もあるため、内容の計は必ずしも合計と一致しません。

桁　数		7 桁 以 上	6 ～ 5 桁	4 ～ 3 桁	2 桁 以 下
四捨五入の方法		100の位を 四捨五入	10の位を 四捨五入	1 の位を 四捨五入	四捨五入 しない
例	四捨五入前	1,234,567	123,456	1,234	12
	四捨五入後	1,235,000	123,500	1,230	12

Ⅳ）本資料で使われている主な統計用語は、次のとおりです。

（1）農家とは……経営耕地面積が10アール以上であるか又は過去1年間の農産物販売金額が15万円以上あるかのどちらかの要件を満たしている世帯。

（2）販売農家とは……経営耕地面積30アール以上又は農産物販売金額50万円以上の農家。

単一経営農家　農産物の１位部門の販売金額が全体の80%以上を占める農家

複合経営農家　単一経営以外の農家で１位部門の販売金額が農産物総販売額の60%未満の農家

準単一複合経営農家　複合経営のうち１位部門の販売金額が農産物総販売額の60%以上80%未満の農家

（3）自給的農家とは……経営耕地面積30アール未満でかつ農産物販売金額50万円未満の農家。

利用にあたって

（４）基幹的農業従事者とは…自家農業に主として従事した世帯員のうち、普段農業に従事することを主としている者。

（５）農業専従者とは……自家農業に従事している者であり、自家農業に従事した日数が150日以上の者。

（６）農家所得＝農業所得（農業粗収益から農業経営費を差し引いたもの）＋農外所得（農外収入から農外収入をあげるために要した費用を差し引いたもの）

（７）生産農業所得＝農業総産出額×所得率＋農業生産に関わる経常補助金

（８）農業産出額とは……農業生産活動による最終生産物の総生産額であり、市町村別の農産物別生産数量に市町村別農産物別農家庭先価格を乗じて算出したもの。市町村を推計単位としている。

（９）林業経営体とは……次のいずれかに該当する事業を行う者。

①権原に基づいて育林又は伐採を行うことができる山林の面積が3ha以上の林業（「森林施業計画」を策定している者又は、５年間継続して林業を行い、育林又は伐採を実施した者に限る。）

②委託を受けて行う育林若しくは素材生産又は立木を購入して行う素材生産の事業（素材生産については、１年間に200㎥以上の素材を生産した者に限る。）

（10）林業就業者とは……15歳以上で特定の1週間の間に林業に従事した者。

（11）上記のうち主として林業に就業している者とは……主に勤務や自営により林業の仕事をしていた場合。

（12）生産林業所得＝林業産出額×所得率

（13）漁業経営体とは ……過去1年間に利潤又は生活の資を得るために、生産物を販売することを目的として、海面において水産動植物の採捕又は養殖の事業を行った世帯又は事業所をいう。ただし過去1年間における漁業の海上作業従事日数が30日未満の個人経営体は除く。

個人経営体　個人で漁業を自営する経営体。

（14）漁業就業者とは……満15歳以上で過去1年間に漁業の海上作業に30日以上従事した者。

（15）漁業生産額とは……漁業生産活動による最終生産物の生産額であり、漁業・養殖業の魚種別生産量等に魚種別産地市場価格等を乗じて算出したもの。

Ⅰ　和歌山県の農林水産業の特徴

1　和歌山県農林水産業の主要指標

	農業			林業			水産業		
担う人々	農家 平22.2.1	戸 33,799	% 100.0	林家 平22	戸 28,195				
	販売農家 平22.2.1	23,207	68.7	林業経営体 平22	経営体 2,650		漁業経営体 平20	経営体 2,513	
	自給農家 平22.2.1	10,592	31.3				うち個人経営体 平20	経営体 2,403	
	専業農家 平22.2.1	9,644	28.5						
	一種兼業 平22.2.1	3,854	11.4						
	二種兼業 平22.2.1	9,709	28.7						
	基幹的農業従事者 平22.2.1	人 36,121		林業就業者 平17	人 1,021		漁業就業者 平20	人 3,922	
	農業専従者（販売農家） 平22.2.1	29,033		うち主として林業に就業していた者	830		うち自営漁業就業者 平20	2,521	
基盤	耕地 平22	ha 35,200	% 100.0	森林面積 平23.4.1	ha 363,205		漁船 平23	隻 5,529	% 100.0
	水田 平22	10,600	30.1	民有林 平23.4.1	345,674	% 95.2	ジーゼル 平23	3,826	69.2
	樹園地 平22	22,100	62.8	人工林 平23.4.1	208,768	57.5			
	普通畑 平22	2,550	7.2	天然林 平23.4.1	131,643	36.2			
	耕地利用率 平22	% 91.5		人工林ha当蓄積 平23.4.1	m^3 365				
所得	農家所得一戸当り 平22	千円 2,905	% 100.0						
	農業所得 平22	1,762	60.7						
	農外所得 平22	1,143	39.3						
	生産農業所得 平22	億円 303		生産林業所得 平22	百万円 2,340				
産出額	農業産出額 平22	億円 1,025	% 100.0	林業産出額 平22	百万円 3,560	% 100.0	漁業生産額 平22	百万円 14,871	% 100.0
	米 平22	78	7.6	木材 平22	1,890	53.1	魚類 平22	8,135	54.7
	果実 平22	613	59.8	木炭 平22	640	18.0	水産動物類 平22	1,324	8.9
	うちみかん 平22	269	26.2	特用林産物 平22	1,030	28.9	海産ほ乳類 平22	22	0.1
	うち梅 平22	108	10.5				貝類 平22	220	1.5
	野菜 平22	165	16.1				海藻類 平22	67	0.5
	花き 平22	58	5.7				海面養殖 平22	5,102	34.3
	畜産 平22	62	6.0						

〔利用上の注意〕

農家調査は販売農家を抽出単位とし、センサスで確定された経営組織区分と県内農業地域に基づき部分母集団を設定した上で、部分母集団別に系統抽出された農家を対象とする標本調査であるため、その調査結果は推計による県計値となる。

（農林業の平成22年２月１日現在の数値は、2010年世界農林業センサスより）

（水産業を担う人々の数値は2008年 漁業センサス、漁船の数値は「県漁船統計表」より）

2　和歌山県の農業の特徴

1）農業産出額の構成及び生産農業所得

和歌山県の農業産出額の構成は全国・近畿とは大きく異なり、果実の構成比が59.8%と半分以上を占め果樹農業に特化している。

全　国　　畜産＞野菜＞ 米 ＞果実＞花き
近　畿　　野菜＞ 米 ＞畜産＞果実＞花き
和歌山　　果実＞野菜＞ 米 ＞畜産＞花き

単位：億円、%

平成22年	和歌山県		近畿		全国		全国シェア
	金額①	構成比	金額	構成比	金額②	構成比	(①／②)
農業産出額	1,025	100	4,423	100	82,551	100	1.2
米	78	7.6	1,090	24.6	15,722	19.0	0.5
野菜	165	16.1	1,188	26.9	22,485	27.2	0.7
果実	613	59.8	813	18.4	7,497	9.1	8.2
花き	58	5.7	193	4.4	3,512	4.3	1.7
畜産	62	6.0	878	19.9	26,475	32.1	0.2
その他	49	4.8	261	5.9	6,860	8.3	0.7
生産農業所得	303		1,468		28,395		1.1

2）本県基幹農作物の全国シェア（全国5位以内）

果樹ある王国「わかやま」

平成22年産出額全国順位

う　め	1 位（全国シェア 54.0%）	か　き	1 位（全国シェア 19.7%）
みかん	1 位（全国シェア 17.5%）	も　も	3 位（全国シェア　9.3%）

単位：億円、%

平成 22 年	産出額		全国シェア	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
農作物名	和歌山県（億円）	全国（億円）						
みかん	269	1,540	17.5	**和歌山**	静岡	愛媛	熊本	佐賀
うめ	108	200	54.0	**和歌山**	群馬	神奈川	福岡	山梨
かき	84	426	19.7	**和歌山**	奈良	福岡	岐阜	新潟
はっさく	36	53	67.9	**和歌山**	広島	愛媛	香川	大分
えんどう	28	203	13.8	鹿児島	**和歌山**	愛知	北海道	福島
スターチス	17	46	37.0	北海道	**和歌山**	長野	千葉	熊本
すもも	10	72	13.9	山梨	**和歌山**	長野	山形	福岡
いちじく	7	68	10.3	愛知	**和歌山**	福岡	兵庫	奈良
宿根カスミソウ	6	34	17.6	熊本	**和歌山**	福島	北海道	愛知
もも	46	492	9.3	山梨	福島	**和歌山**	長野	岡山
キウイフルーツ	11	88	12.5	愛媛	福岡	**和歌山**	神奈川	静岡
ししとう	4	64	6.3	高知	千葉	**和歌山**	徳島	宮崎
しょうが	12	186	6.5	高知	熊本	千葉	宮崎	**和歌山**

※全国で産出額が50億円以上（花きについては30億円以上）の品目で、本県が5位以内のもの（平成22年生産農業所得統計）
※本編での「えんどう」とは、うすいえんどう、きぬさやえんどう、オランダを合算したものである。

3　和歌山県の林業の特徴

森林資源の概況

和歌山県の森林面積は363,205ha、森林率は77％で全国第7位。その内、民有林面積は345,674haで95％を占める。なお、民有林は、個人有林や会社有林などの私有林と、県有林や市町村有林などの公有林で構成される。

林家

2010年現在の林家数は28,195戸であるが保有林5ha以下の林家が全体の69.7％を占める。保有山林規模100ha以上の林家では、林家数の0.7％を占めるにすぎないが、保有面積で25.5％を占めている。

1）森林資源　～民有林を主とした森林資源の維持造成～

	全国 %	和歌山 %	順位	全国順位（上位5道府県） 1位	2位	3位	4位	5位
森林率	66.4	76.9	7位	高知	岐阜	島根	長野	山梨
人工林率	41.2	60.8	10位	佐賀	高知	愛知	福岡	三重
国有林率	30.6	4.8	42位	青森	北海道	山形	秋田	群馬
民有林率	69.4	95.2	6位	山梨	大阪	京都	山口	奈良

（林野庁計画課「森林資源表」平成19.3.31現在）

2）民有林の森林資源の概況　～人工林の蓄積は、全国屈指の資源量～

単位：千ha、千m^3

	全国	和歌山	順位	全国順位（上位5道府県） 1位	2位	3位	4位	5位
人工林面積	7,983	210	15位	北海道	岩手	長野	岐阜	高知
人工林蓄積	2,227,696	73,714	9位	北海道	岩手	高知	熊本	宮崎
うちスギ	1,337,719	35,808	16位	秋田	宮崎	大分	熊本	岩手
うちヒノキ	488,028	36,445	2位	岐阜	**和歌山**	高知	熊本	静岡

（林野庁計画課「森林資源表」平成19.3.31現在）

【参考】北海道の人工林は、カラマツ・トドマツ・エゾマツを中心とした資源構成。

3）林家の構成　～小規模林家による森林所有と大規模森林所有者による林業経営～

保有山林面積規模別林家数と面積（和歌山県）

単位：戸、ha、％

	累計	1～5	5～10	10～20	20～50	50～100	100以上
林家数	28,195	19,660	4,584	2,375	1,112	267	197
構成比	100	69.7	16.3	8.4	3.9	0.9	0.7
面積	216,093	45,298	31,817	32,697	33,090	17,984	55,207
構成比	100	21.0	14.7	15.1	15.3	8.3	25.5

（2010年県林業振興課業務資料）

（注記）
※本表における林家とは、県林業振興課業務資料上、個人で保有する山林面積が1ha以上の森林所有者をいう。
なお、1ha未満の森林所有者数は25,738人、森林面積は10,837haである。

保有山林面積規模別林家数と面積（全国）

単位：戸、ha、％

	累計	1～5	5～10	10～20	20～50	50～100	100以上
林家数	906,805	680,686	119,292	64,163	32,509	6,797	3,358
構成比	100	75.1	13.2	7.1	3.6	0.7	0.4
面積	5,212,559	1,423,321	775,994	825,595	904,568	434,883	848,198
構成比	100	27.3	14.9	15.8	17.4	8.3	16.3

（2010年世界農林業センサス）

（注記）
※本表における林家とは、保有山林面積が1ha以上の世帯をいう。

4　和歌山県の水産業の特徴

本県の主な漁業生産の全国シェア

南北に長いリアス式海岸線を擁する和歌山県では、各地で沿岸・沖合漁業を中心に多種多様な漁業が営まれている。

1）漁業種類別漁獲量

単位：トン、％

平成22年	漁業種類別漁獲量		全国	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
区分	和歌山県	全国	シェア										
ひき縄釣	2,030	22,613	9.0	高知	沖縄	長崎	**和歌山**	宮崎	千葉	福岡	鹿児島	兵庫	東京
中・小型まき網	13,891	410,874	3.4	島根	長崎	三重	千葉	宮崎	鹿児島	静岡	愛媛	大阪	**和歌山**
沿岸まぐろはえ縄	745	6,527	11.4	宮崎	沖縄	岩手	**和歌山**	宮城	高知	北海道	青森	千葉	長崎

2）魚種別漁獲量

単位：トン、％

平成22年	魚種別漁獲量		全国	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
区分	和歌山県	全国	シェア										
あじ類計	4,342	184,505	2.4	長崎	島根	鳥取	福岡	千葉	鹿児島	愛媛	三重	山口	**和歌山**
むろあじ類	2,351	25,065	9.4	長崎	鹿児島	三重	**和歌山**	宮崎	高知	静岡	福岡	兵庫	大分
海産ほ乳類	174	932	18.7	岩手	**和歌山**	北海道	長崎	石川	富山	鹿児島	高知	宮城	三重
いせえび	171	1,193	14.3	千葉	三重	**和歌山**	静岡	長崎	鹿児島	宮崎	徳島	東京	高知
たちうお	1,068	10,081	10.6	愛媛	大分	**和歌山**	広島	兵庫	徳島	長崎	熊本	静岡	鹿児島
いさき	216	3,826	5.6	長崎	山口	福岡	神奈川	島根	三重	**和歌山**	大分	愛媛	静岡
養殖まだい	1,827	67,607	2.7	愛媛	熊本	三重	高知	長崎	**和歌山**	香川	大分	静岡	宮崎
内水面養殖あゆ	1,131	5,676	20.0	**和歌山**	愛知	岐阜	滋賀	徳島	宮崎	栃木	静岡	高知	鹿児島

注　あじ類：まあじとむろあじ類の合計
　　海産ほ乳類：いるか類及びくじら類（捕鯨漁業により捕獲されたものを除く）
注　養殖まだいについては、千葉、東京、大阪、山口、徳島、福岡が秘密保護のため順位に含まれていない。
注　内水面漁業養殖あゆについては、北海道、青森、岩手、宮城、福島、茨城、群馬、千葉、東京、新潟、富山、石川、福井、山梨、兵庫、奈良、鳥取、島根、香川、愛媛、福岡、長崎、大分が秘密保護のため順位に含まれていない。

（農林水産統計年報）

Ⅱ　和歌山県の農林水産業の動向

1　農業部門

1）農業指標

本県の総農家数は33,799戸、うち販売農家数23,207戸である。販売農家のうち専兼別の比率は専業41.6％、1種兼業16.6％、2種兼業41.8％ で兼業農家の比率がやや高い。(2010年「世界農林業センサス」結果より)
耕地面積は35,200haであり、その利用形態は水田30.1％、樹園地62.8％、普通畑 7.2％である。
農業産出額は10,250千万円（構成比：米7.6％　果実59.8％　野菜16.1％　花き5.7％　畜産6.0％）

	平成22年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
総農家	戸 33,799	% 100.0	戸 6,985	戸 5,439	戸 4,189	戸 5,088	戸 5,740	戸 5,025	戸 1,333
販売農家	23,207	(100.0)	4,444	3,872	2,700	3,921	4,450	3,300	520
専業	9,644	28.5 (41.6)	1,713	1,519	969	1,791	1,903	1,484	265
1兼	3,854	11.4 (16.6)	567	606	435	854	802	560	30
2兼	9,709	28.7 (41.8)	2,164	1,747	1,296	1,276	1,745	1,256	225
	平成22年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
耕地面積	ha 35,200	% 100.0	ha 6,405	ha 5,632	ha 4,198	ha 5,993	ha 6,635	ha 5,354	ha 999
水田	10,600	30.1	2,789	2,013	1,050	588	2,114	1,349	656
樹園地	22,100	62.8 (100.0)	3,009	3,393	2,993	5,146	3,674	3,697	154
みかん	7,970	(36.1)	1,915	867	230	3,863	368	719	6
はっさく	1,120	(5.1)	101	545	70	219	158	27	3
うめ	5,630	(25.5)	121	201	202	73	2,615	2,414	13
もも	780	(3.5)	53	577	144	4	2	0	0
かき	2,820	(12.8)	272	654	1,839	36	10	6	3
普通畑	2,550	7.2	576	220	157	244	855	313	189
	平成22年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
農業産出額	千万円 10,250	% 100.0	千万円 1,786	千万円 1,875	千万円 1,105	千万円 2,122	千万円 2,044	千万円 1,164	千万円 160
米	780	7.6	237	148	75	39	146	98	37
果実	6,130	59.8	848	1,200	777	1,712	805	775	17
野菜	1,650	16.1	499	276	76	94	611	50	44
花き	580	5.7	36	91	23	64	303	46	11
畜産	620	6.0	111	χ	χ	86	χ	χ	χ

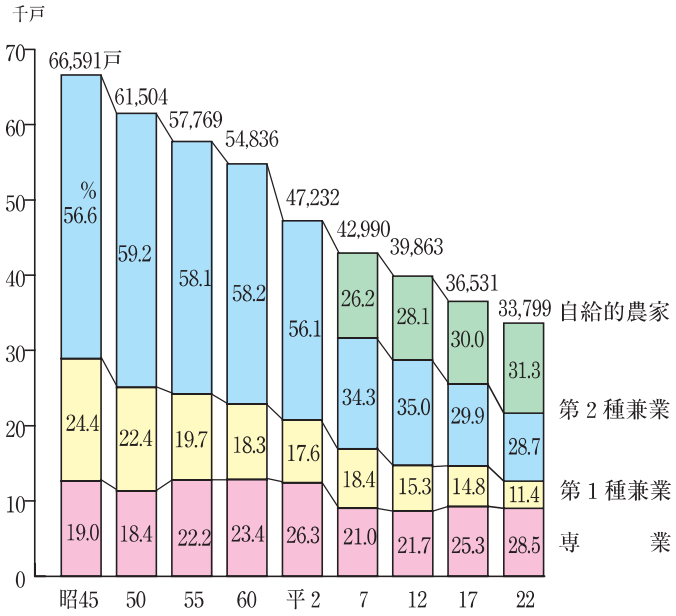
※　ラウンドしているため、各数値の積上げが、合計と一致しない場合があります。
※　「χ」は、統計法に基づく秘密保護のため、公表されていないものです。

(2010年世界農林業センサス・農林水産統計年報・市町村別統計検討協議会調べ)

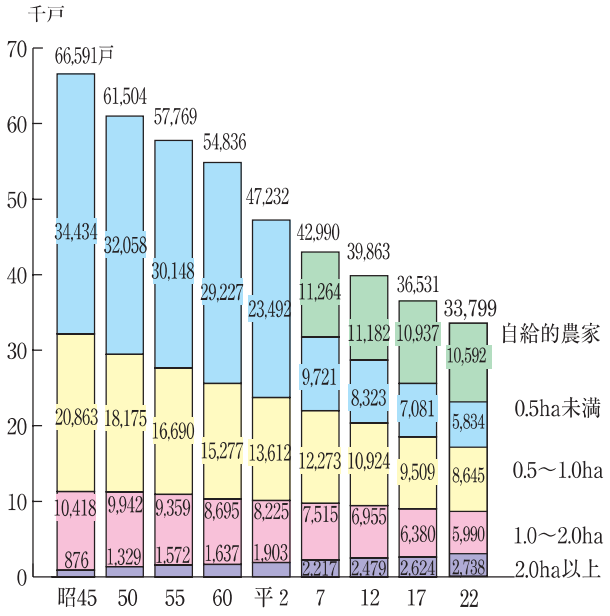
2）農業を担う人々

平成22年の農家戸数は33,799戸で減少傾向が続いている。経営規模が1ha未満の農家が74.2%を占める。年齢別の基幹的農業従事者では60歳以上の占める割合が68.5％と増加している。平成７年以降、新規就農者数は増加傾向にある。

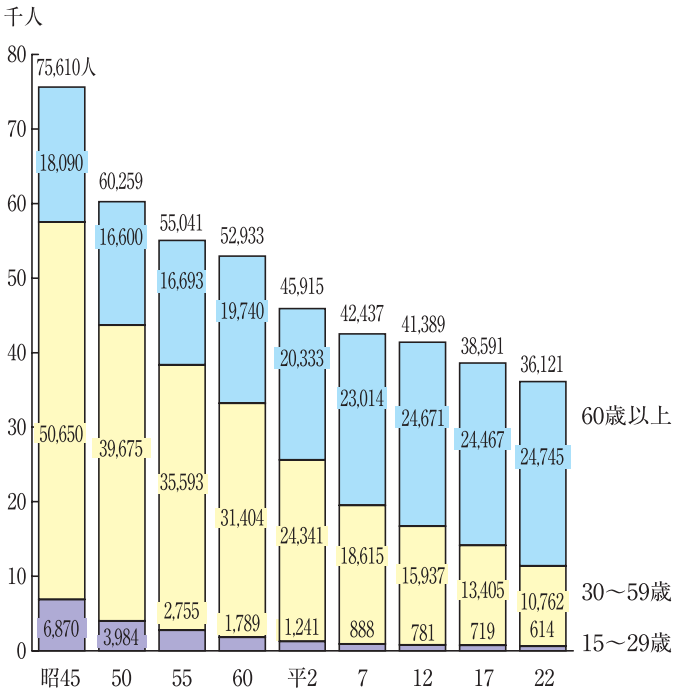
専兼業別農家数の推移



経営規模別農家数の推移



基幹的農業従事者数（年齢別）の推移



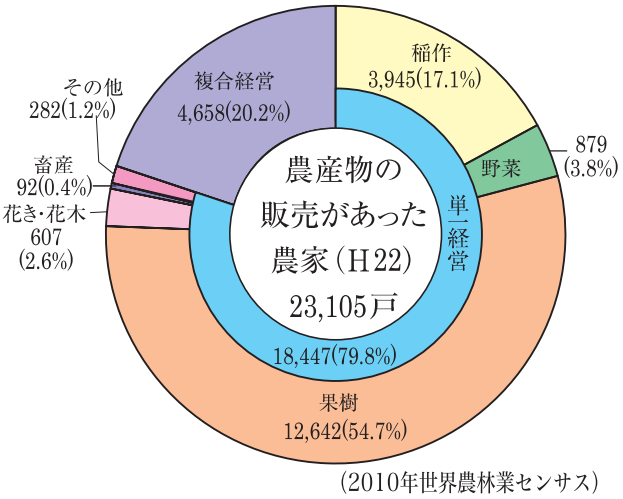
※本調査は、平成8年より調査対象が変更（総農家→販売農家）されていますので、ご利用の際は、ご注意下さい。

農家数

〔平22〕	全国	和歌山県			1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
総農家数	2,527,948	33,799	36	1.3	長野	茨城	福島
販売農家数	1,631,206	23,207	33	1.4	茨城	福島	新潟

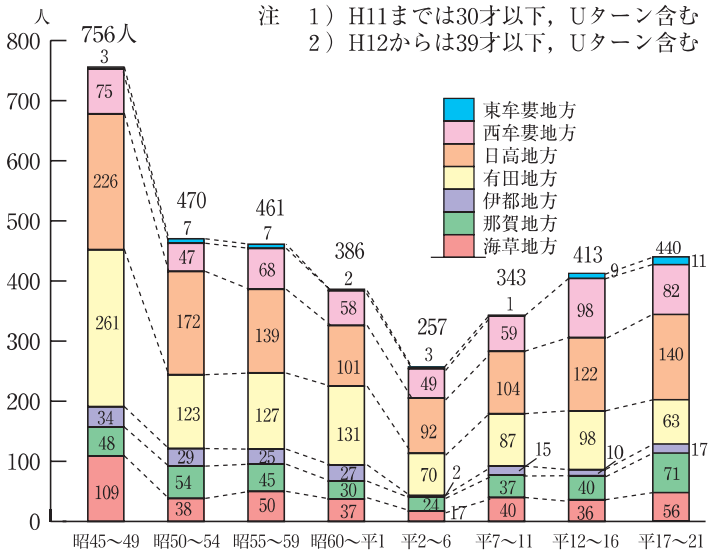
（2010年世界農林業センサス）

農業経営組織別農家数（平成22年）



（2010年世界農林業センサス）

新規就農者数の推移

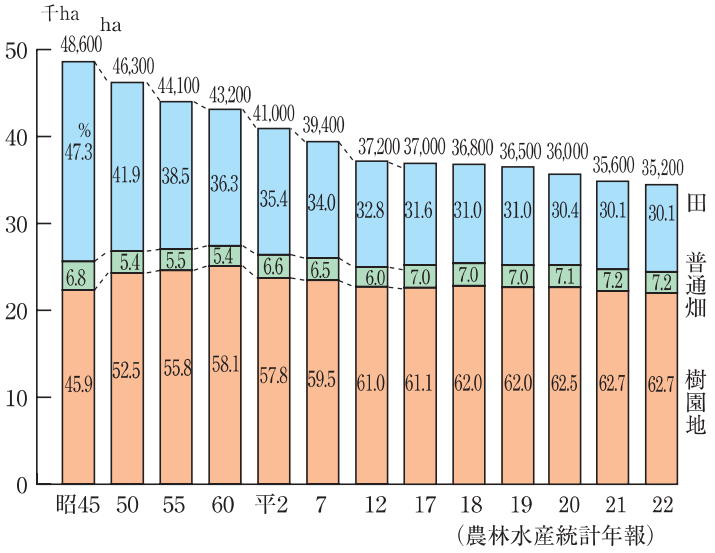


（経営支援課業務資料）

3）耕地面積

耕地面積は減少傾向にあるなかで樹園地の比率が高まっている。
施設面積は平成９年の909ha（耕地面積の2.3%）をピークに減少している。

田畑別耕地面積の推移

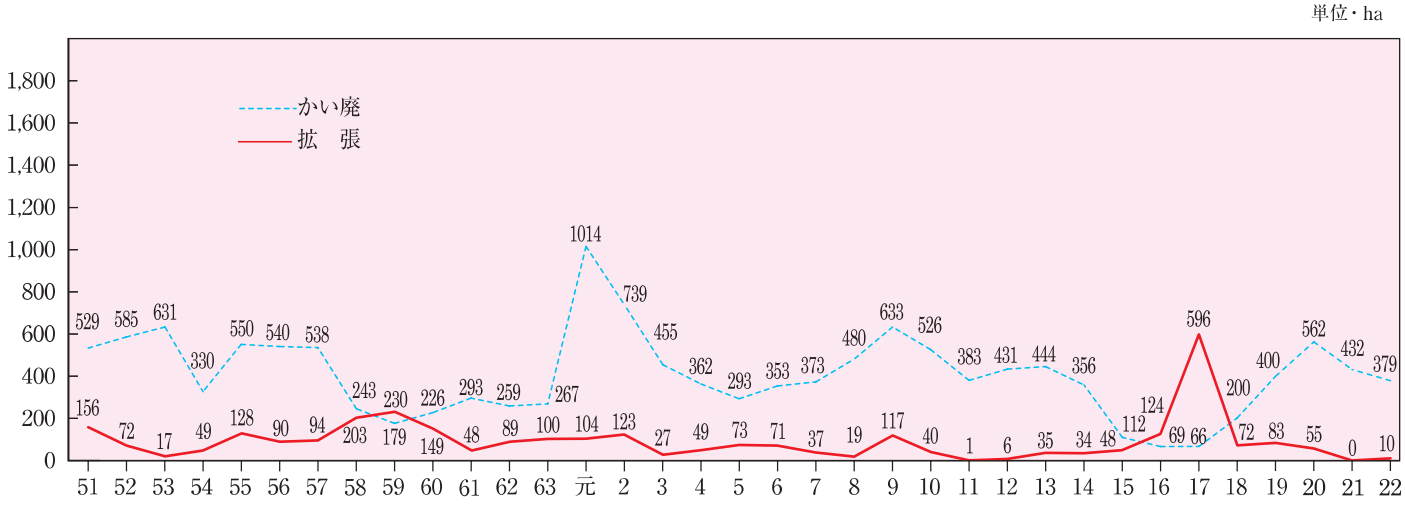


（農林水産統計年報）

耕地面積

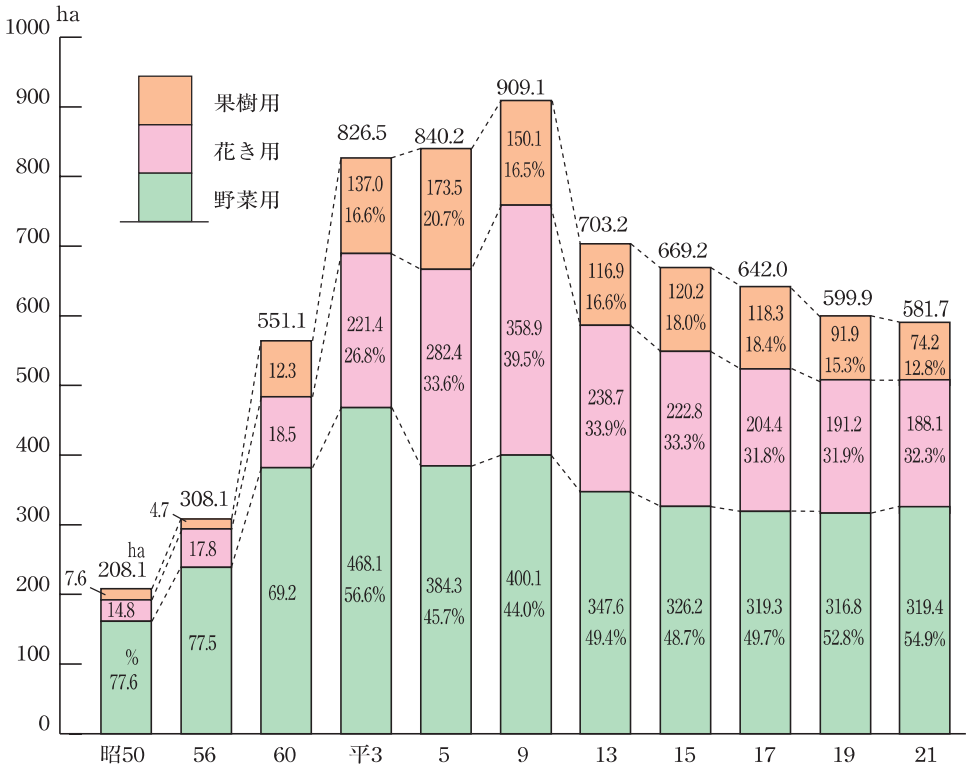
〔平22〕	全国	和歌山県			1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
耕地面積合計(ha)	4,593,000	35,200	37	0.8	北海道	茨　城	新　潟
田	2,496,000	10,600	42	0.4	北海道	新　潟	秋　田
畑	2,097,000	24,600	21	1.2	北海道	鹿児島	茨　城

耕地の拡張・かい廃の推移



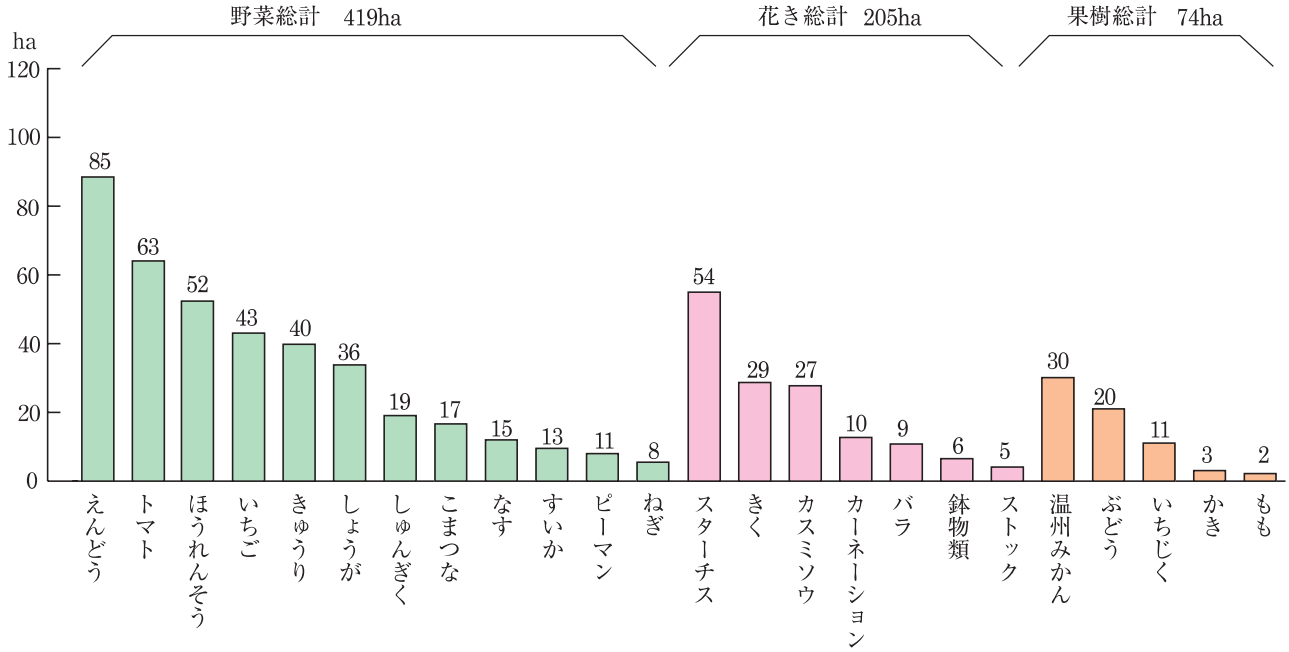
（農林水産統計年報）

施設設置面積の推移



（園芸用ガラス室、ハウス等の設置状況調査）

主要品目別施設栽培延面積（平21）



施設園芸作付延面積の推移

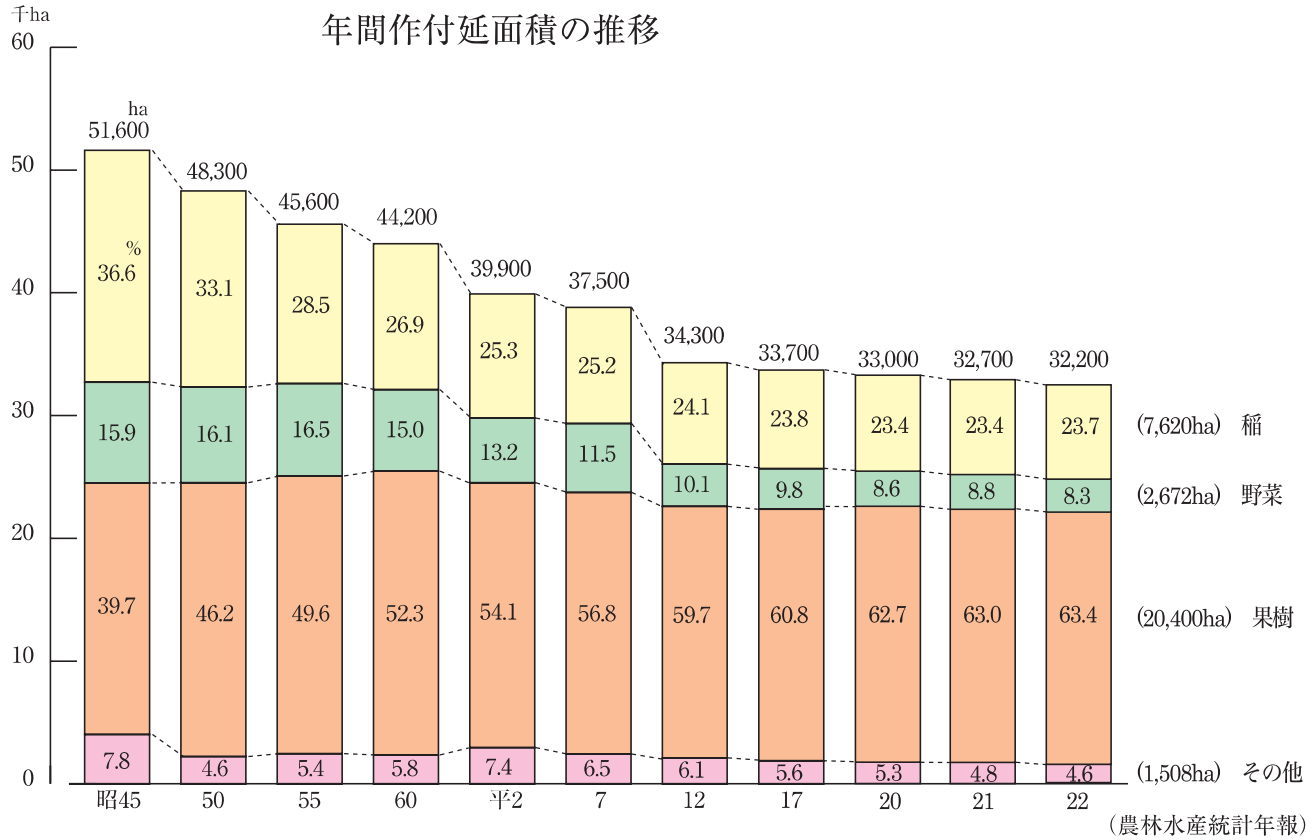
(ha)

	昭50	55	60	平2	5	9	13	15	17	19	21
野　菜	197	358	663	580	459	474	432	380	382	377	419
花　き	35	79	180	276	353	413	266	210	220	211	205
果　樹	16	15	80	137	174	150	117	120	118	92	74
合　計	248	452	923	993	986	1,037	815	710	720	680	698

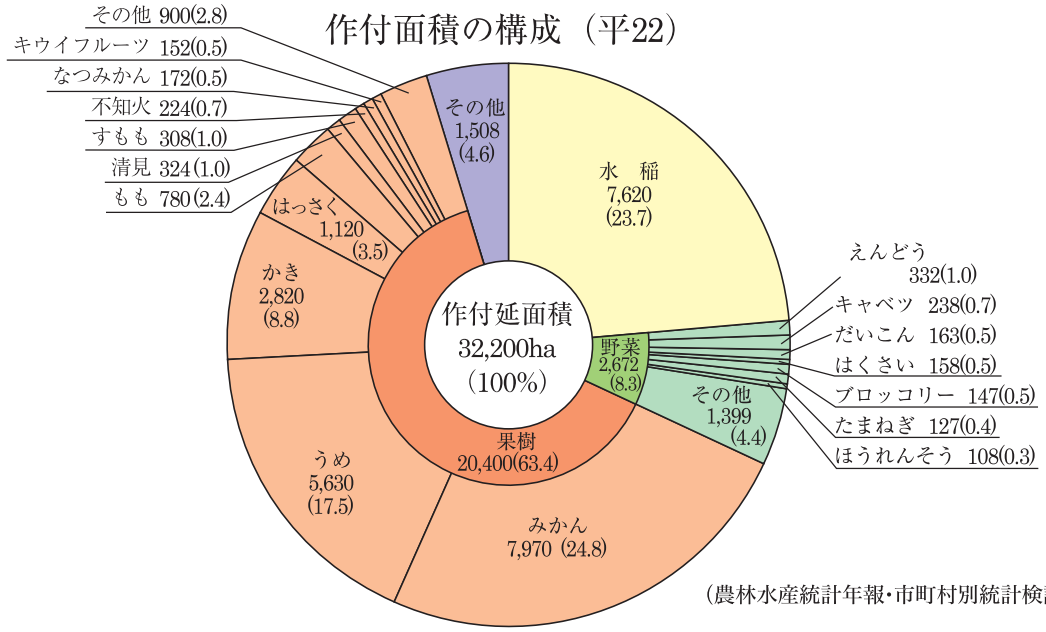
（園芸用ガラス室、ハウス等の設置状況調査）

4）農業生産

年間作付け面積の構成 —— 果樹（63.4％）・水稲（23.7％）・野菜（8.3％）
　水稲、野菜の作付け面積の減少に比べ果樹の作付け面積の減少率は低く、年々果樹のウエイトが高くなっている。



（農林水産統計年報）



（農林水産統計年報・市町村別統計検討協議会調べ）

作　付　延　面　積

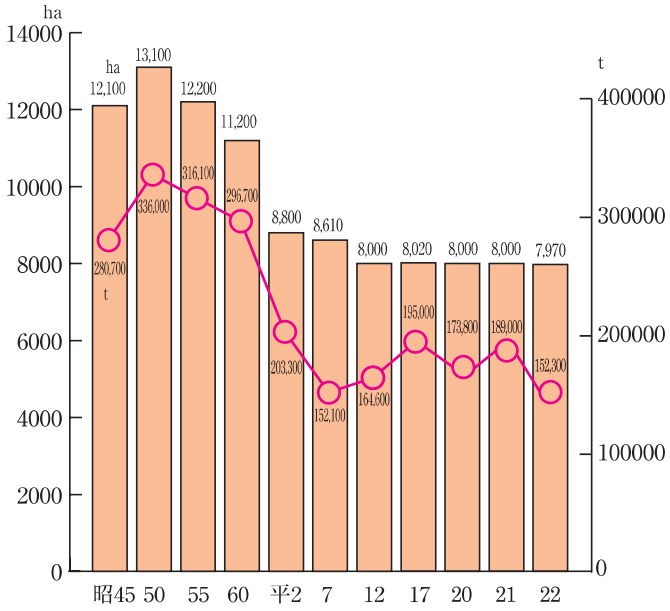
〔平22〕	全　国	和　歌　山　県			1 位	2 位	3 位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
作付延面積(ha)	4,233,000	32,200	36	0.8	北海道	茨　城	新　潟
稲	1,628,000	7,620	42	0.5	新　潟	北海道	秋　田
野　菜	587,600	2,672	46	0.5	北海道	茨　城	千　葉
果　樹	246,900	20,400	3	8.3	青　森	愛　媛	和歌山

かんきつ類の栽培面積及び収穫量の推移

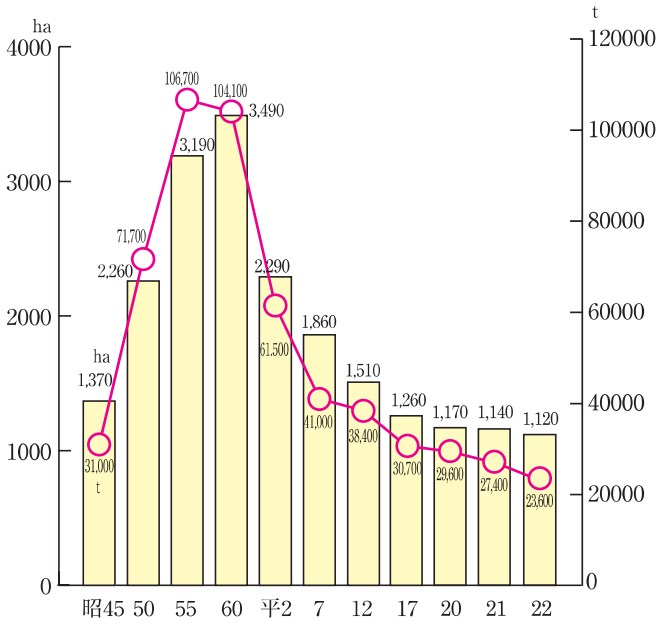
- みかん：みかんの生産過剰とオレンジ輸入自由化により、昭和50年から平成2年にかけて栽培面積は急激に減少するが、平成2年から緩やかな減少傾向となる。
- はっさく：みかんの転換作物として昭和60年まで栽培面積は増大するが、収益性の低下により減少する。近年減少傾向が鈍化している。
- 清見・不知火：みかん・なつみかん・いよかん等の転換作物として栽培面積は増加している。

平成22年の全国順位とシェア（栽培面積）―― みかん1位 （16.3%）

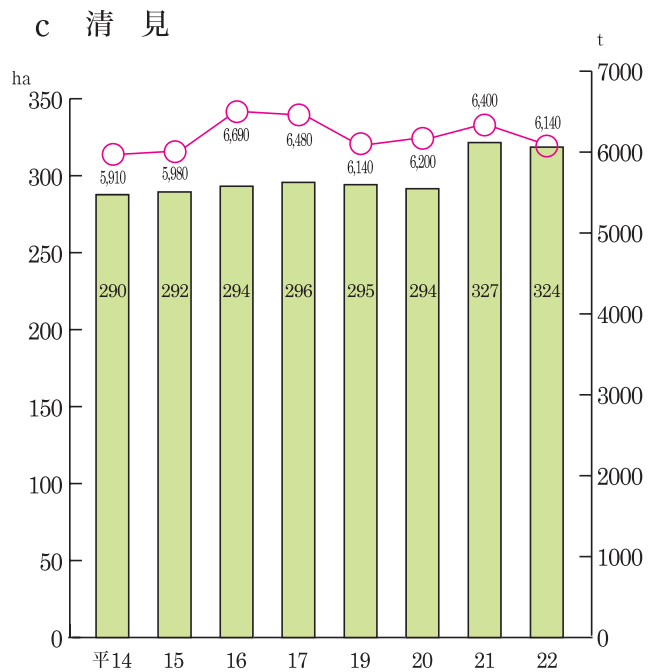
a　みかん



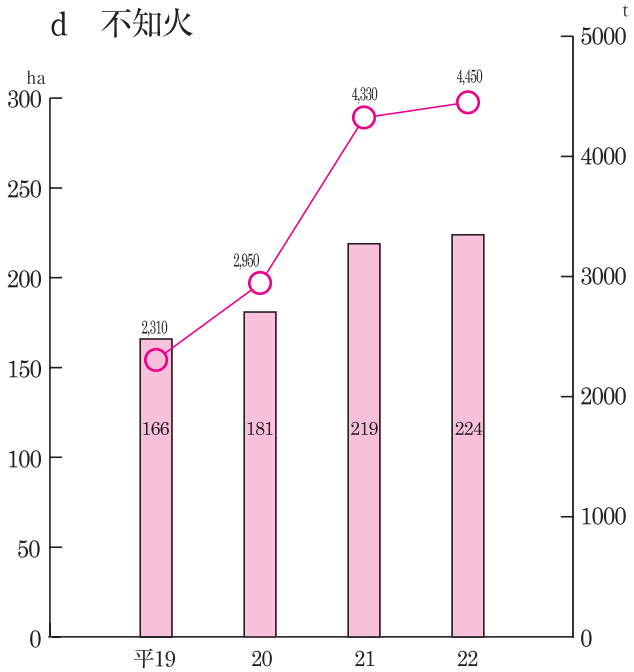
b　はっさく



c　清　見



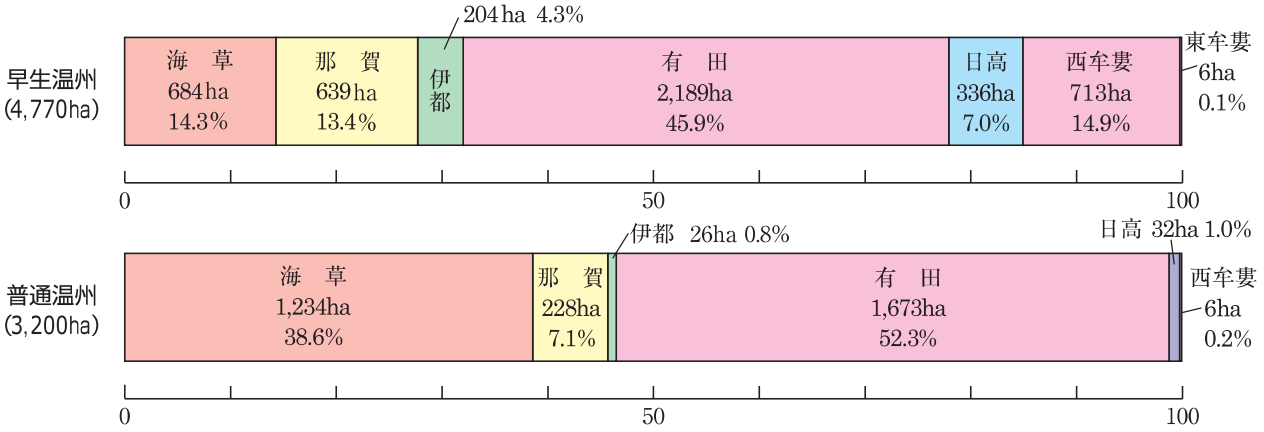
d　不知火



栽培面積（ha）　収穫量（t）

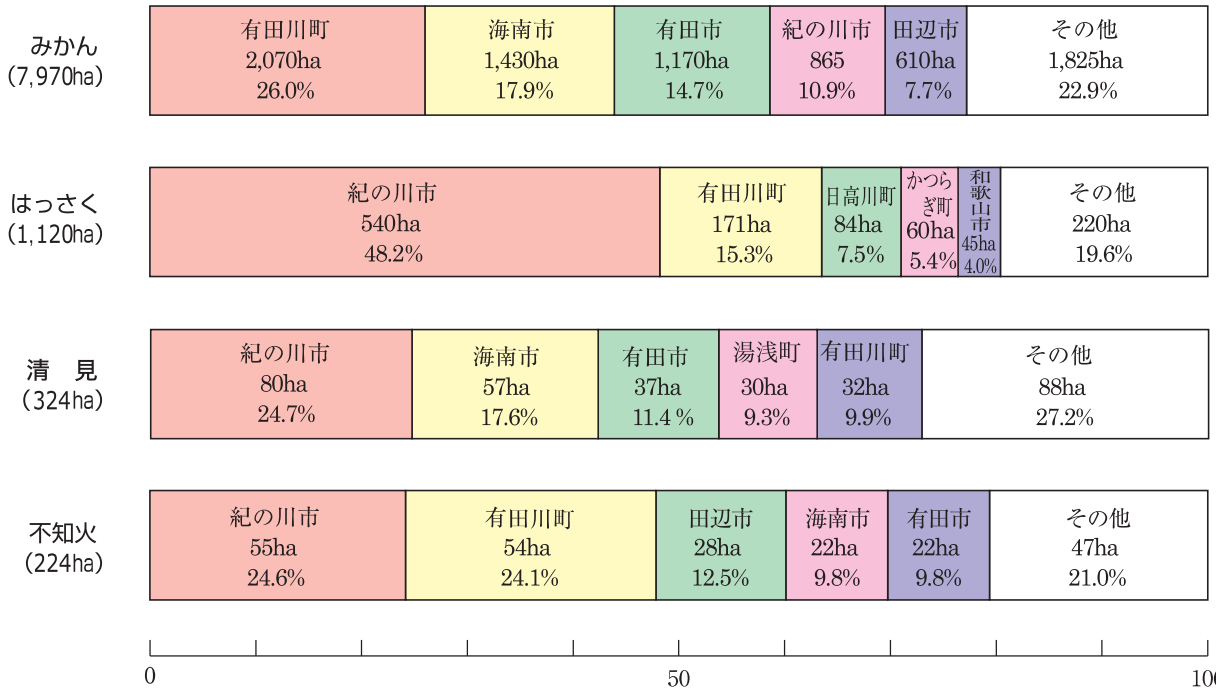
（農林水産統計年報・市町村別統計検討協議会調べ）

郡別・みかんの栽培面積（平22）



（市町村別統計検討協議会調べ）

市町村別・かんきつ類の栽培面積
〔上位５市町村〕（平22）



（市町村別統計検討協議会調べ）

みかんの栽培面積

〔平22〕	全　国	和　歌　山　県			1位	2位	3位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
み　か　ん	48,900	7,970	1	16.3	和歌山	愛　媛	静　岡

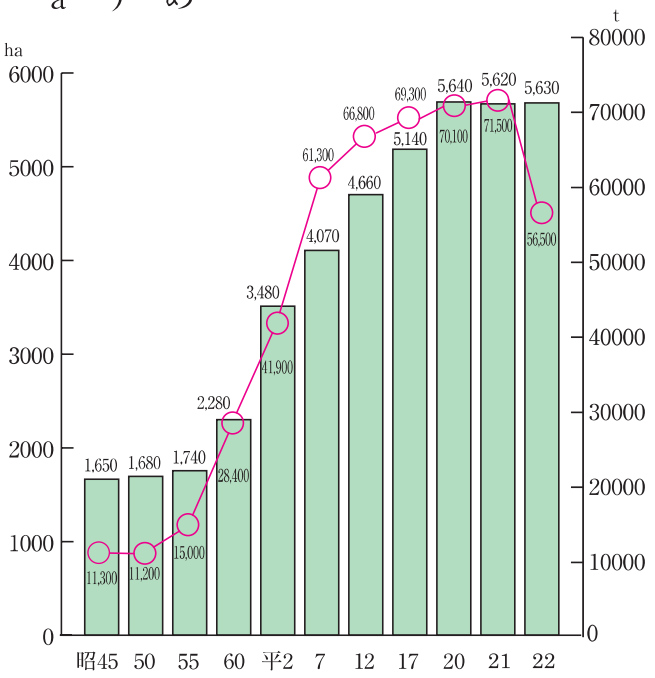
落葉果樹の栽培面積及び収穫量の推移

落葉果樹全体では、昭和55年以降みかんからの転作により栽培面積は増加傾向であったが、現在は横ばいである。

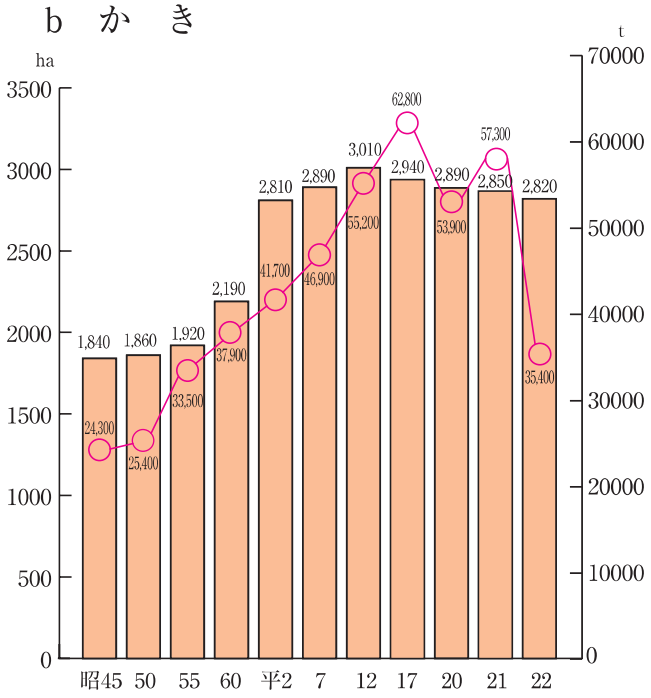
- うめ　昭和55年から平成7年にかけ健康食ブームと相まって栽培面積が急増したが、近年は横ばいとなっている。
- かき・もも　昭和55年から平成2年にかけ栽培面積が急増し、それ以降は横ばいとなっている。
- すもも・キウイフルーツ　平成2年をピークに栽培面積は減少しているが、近年はやや純化傾向である。

平成22年の全国順位とシェア（栽培面積）―― うめ 1位 （31.3%）・かき 1位 （12.2%）
もも 4位 （7.2%）・すもも 3位 （9.7%）
キウイフルーツ 4位 （6.3%）

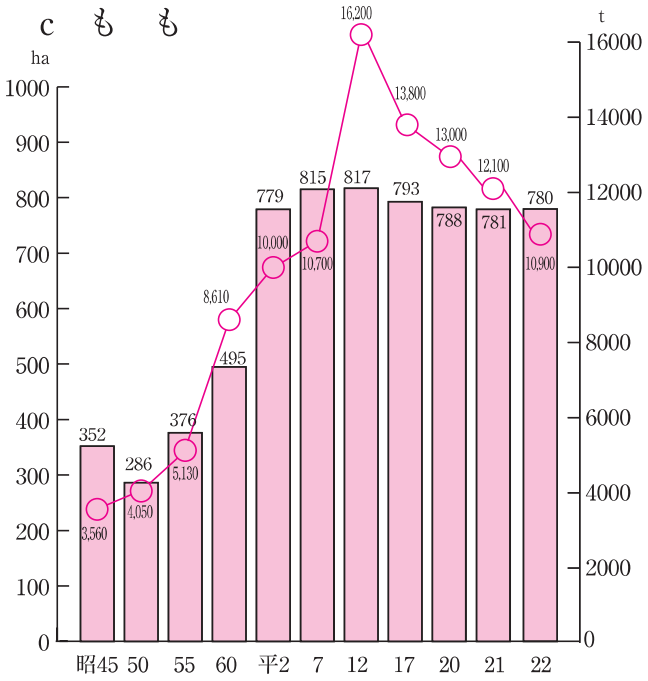
a うめ



b かき



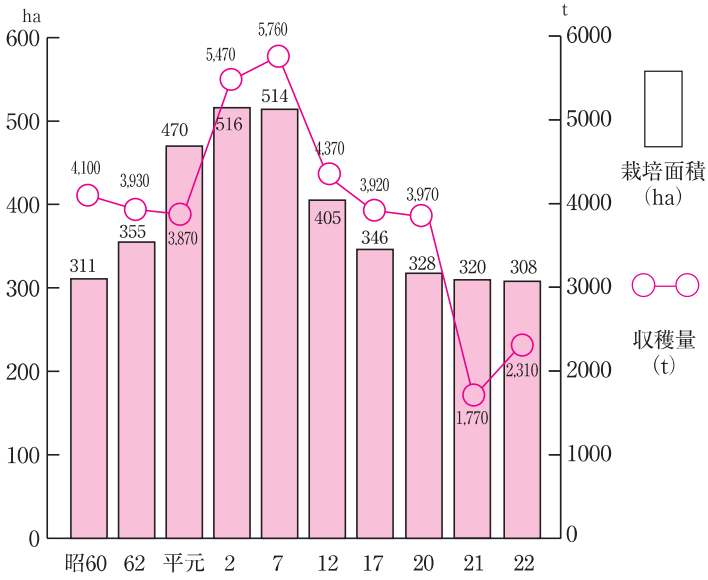
c もも



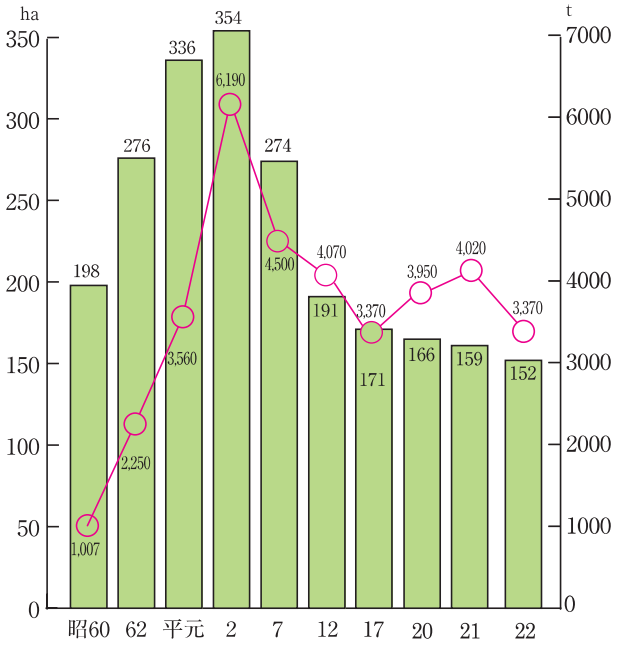
栽培面積（ha）　収穫量（t）

（農林水産統計年報）

d　すもも

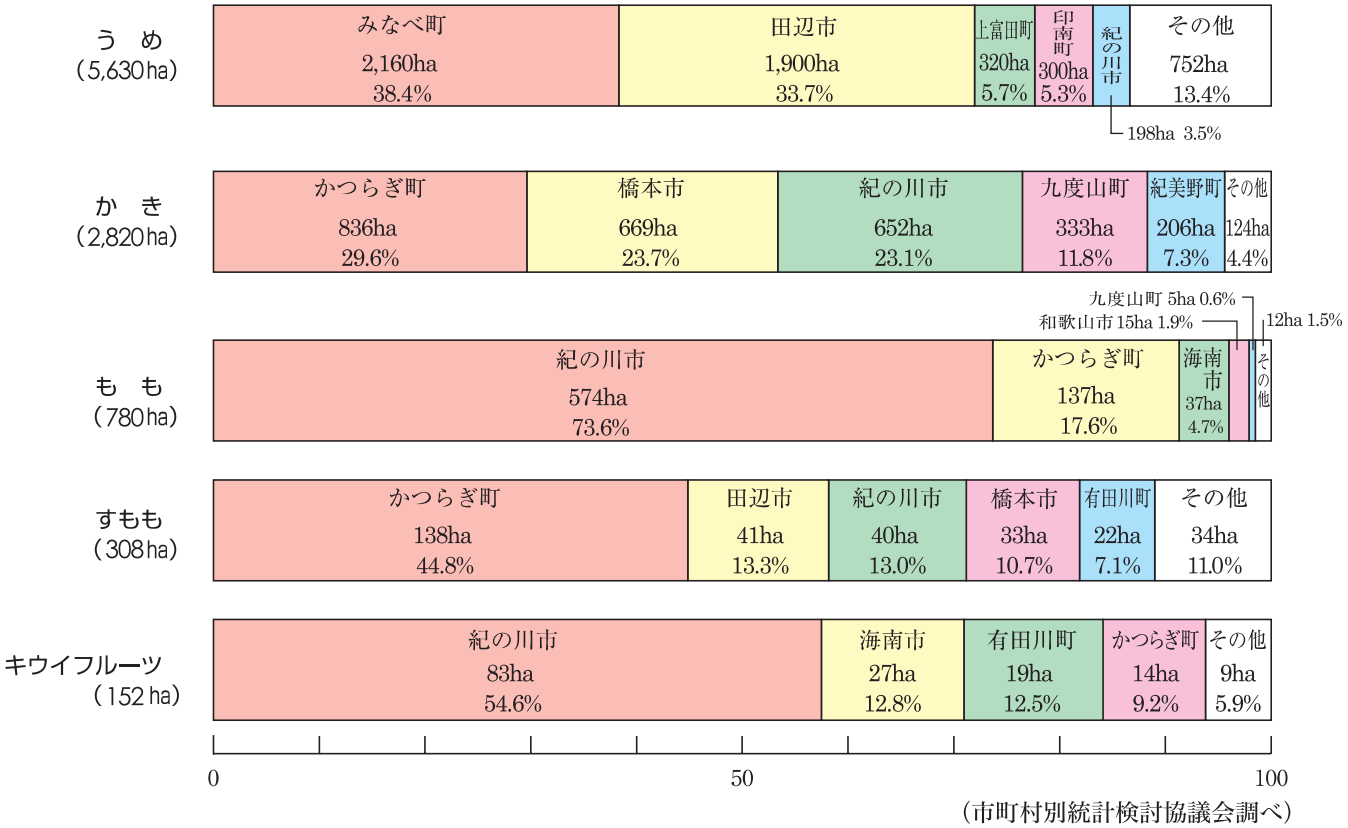


e　キウイフルーツ



（農林水産統計年報）

市町村別・落葉果樹の栽培面積（平22）



（市町村別統計検討協議会調べ）

栽　培　面　積（落葉果樹）

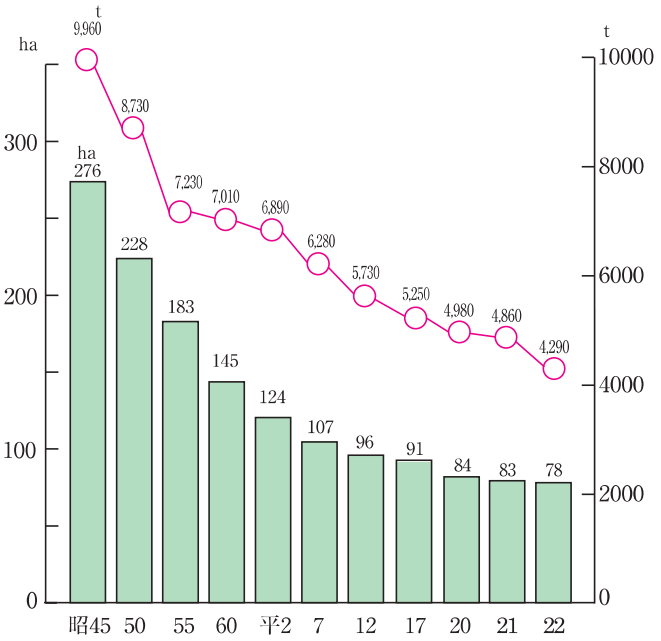
（ha）

〔平22〕	全　国	和　歌　山　県			1位	2位	3位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
うめ	18,000	5,630	1	31.3	和歌山	群　馬	長　野
かき	23,200	2,820	1	12.2	和歌山	福　岡	奈　良
もも	10,900	780	4	7.2	山　梨	福　島	長　野
すもも	3,180	308	3	9.7	山　梨	長　野	和歌山
キウイフルーツ	2,400	152	4	6.3	愛　媛	福　岡	神奈川

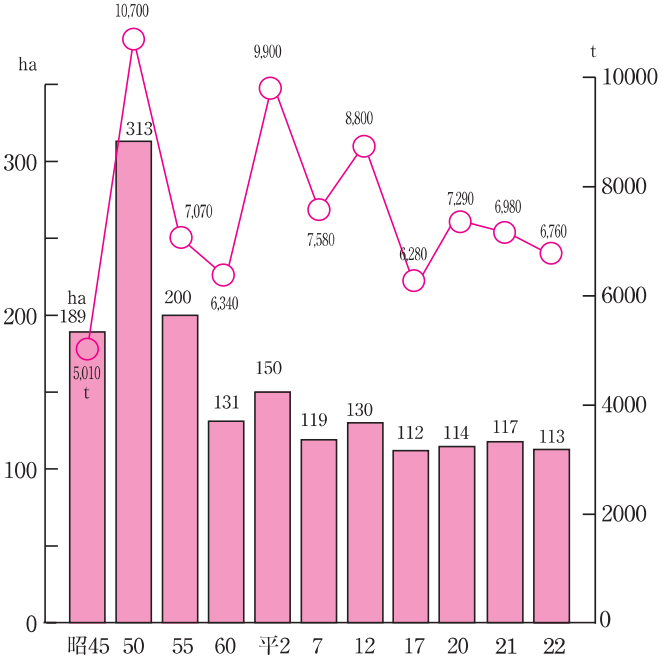
果菜類の作付面積及び収穫量の推移

栽培面積は減少傾向であるが、近年は横ばいで推移している。

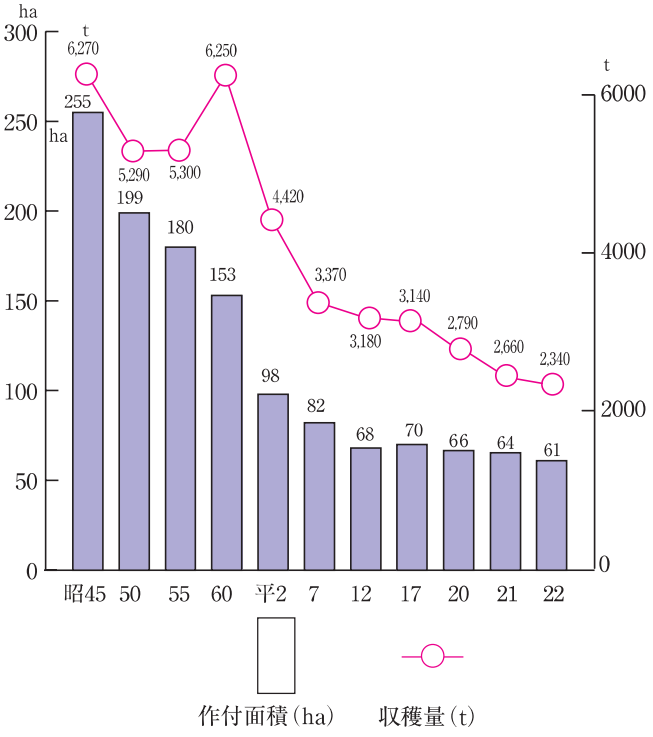
a　きゅうり



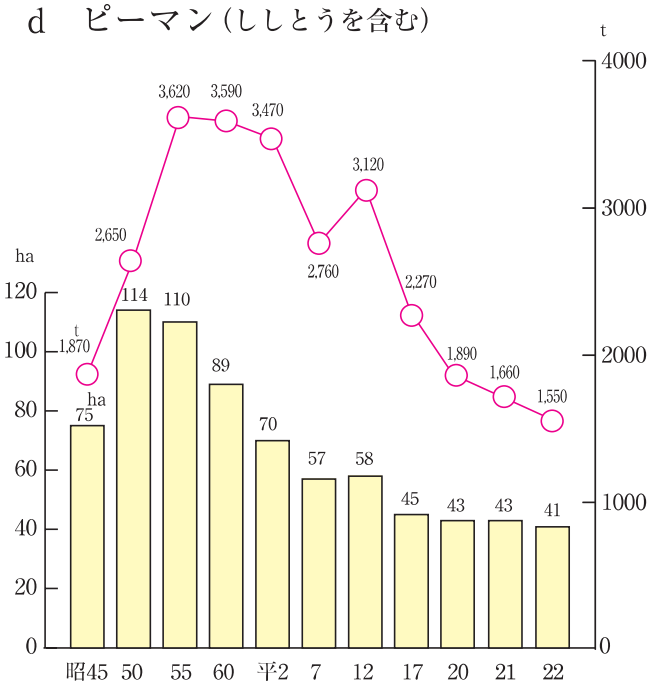
b　トマト（ミニトマトを含む）



c　な　す

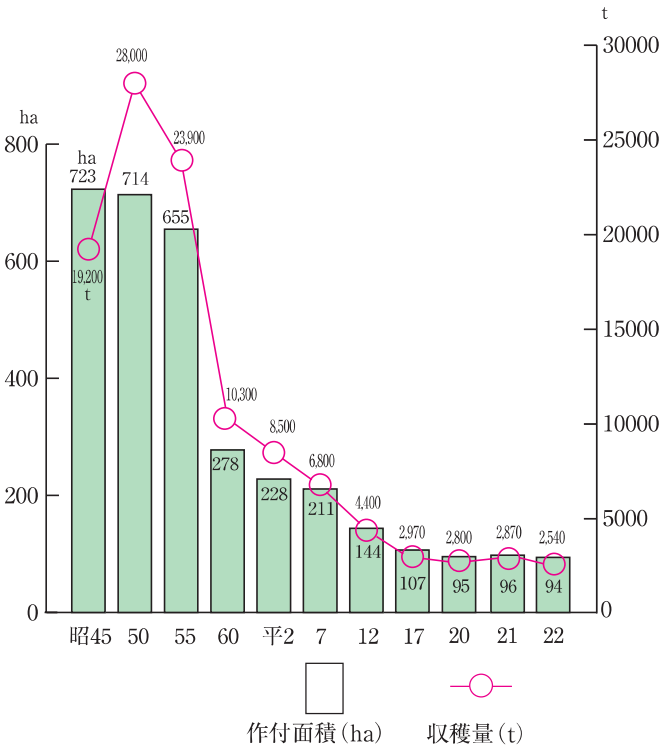


d　ピーマン（ししとうを含む）

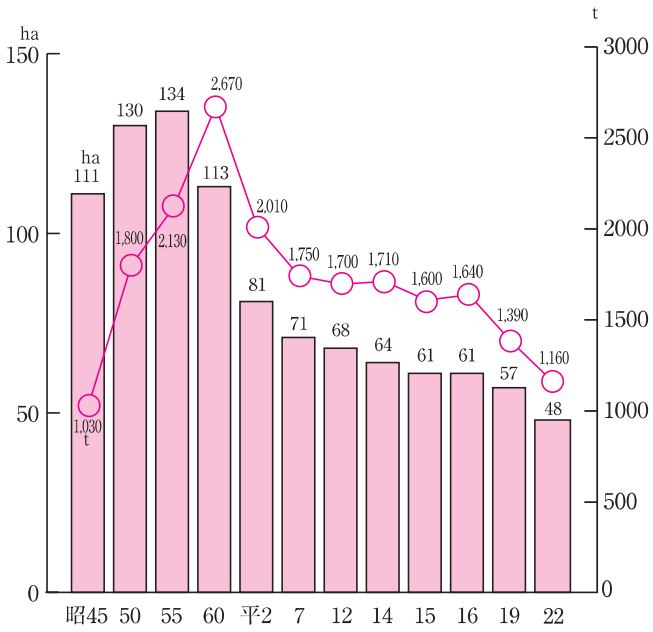


（野菜生産出荷統計）

e　すいか

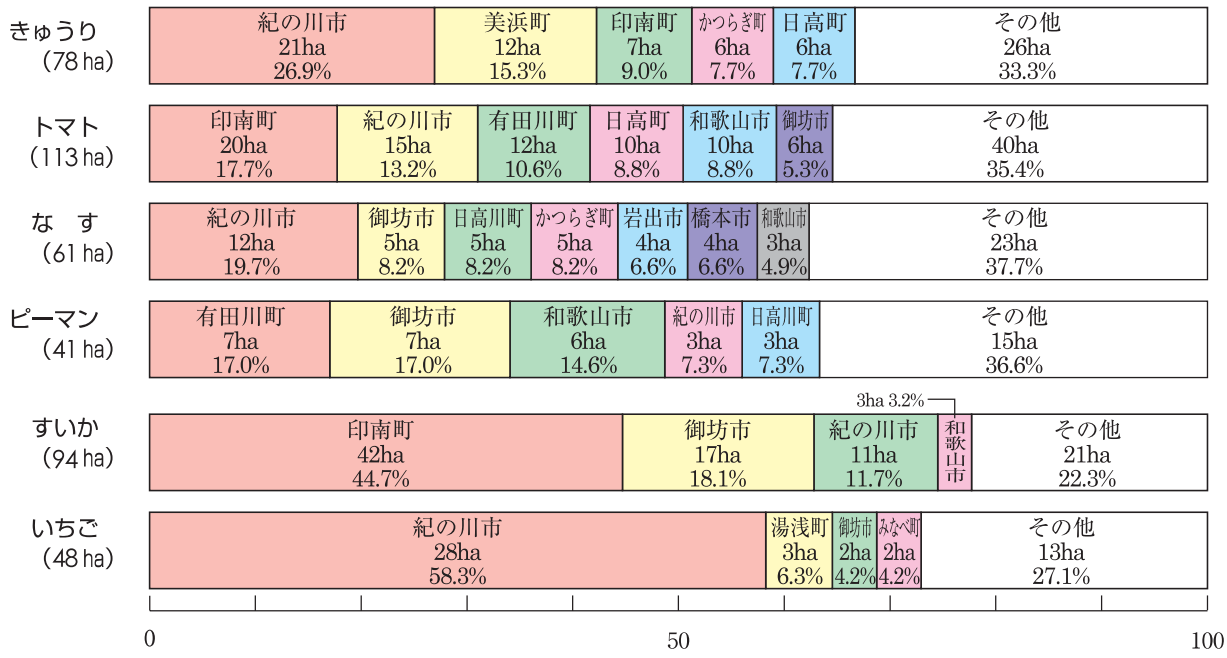


f　いちご



（野菜生産出荷統計）

市町村別・果菜類の作付面積（平22）



（市町村別統計検討協議会調べ・県果樹園芸課業務資料）

作　付　面　積（果菜類）

（ha）

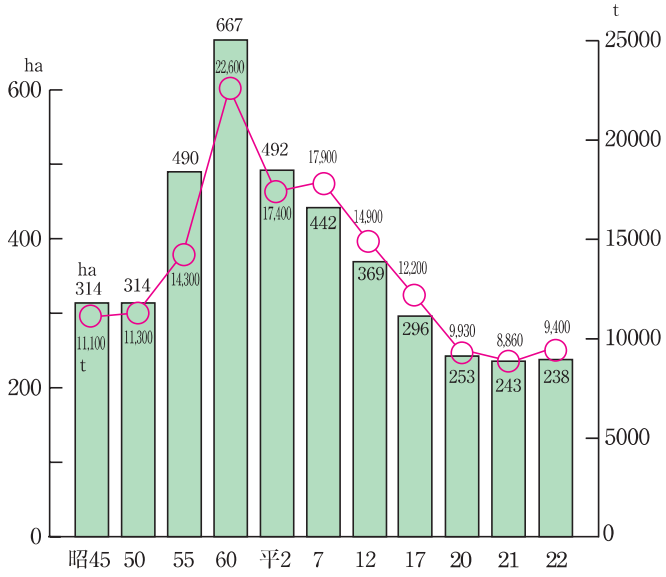
〔平22〕	全　国	和　歌　山　県			1位	2位	3位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
きゅうり	12,100	78	38	0.6	群　馬	福　島	宮　崎
トマト	12,300	113	34	0.9	熊　本	茨　城	千　葉
なす	10,300	61	44	0.6	新　潟	群　馬	山　形
ピーマン	3,430	41	26	1.2	茨　城	宮　崎	岩　手
すいか	11,700	94	22	0.8	熊　本	千　葉	山　形
いちご	6,150	48	33	0.8	栃　木	福　岡	熊　本

※県順位は、公表されている統計数値から作成した。

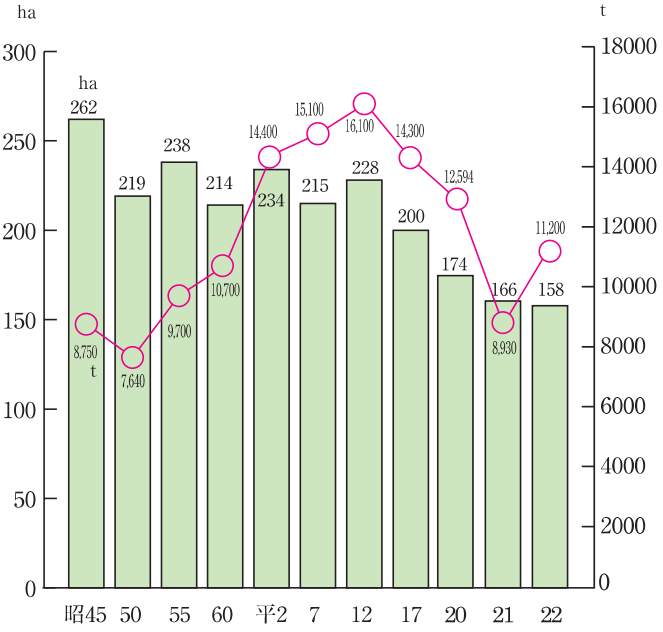
葉茎菜類の作付面積及び収穫量の推移

- 近年、栽培面積、収穫量ともに減少傾向である。
- 21年産は集中豪雨の影響により11月～12月出荷の品目で収穫量が大幅に減少した。

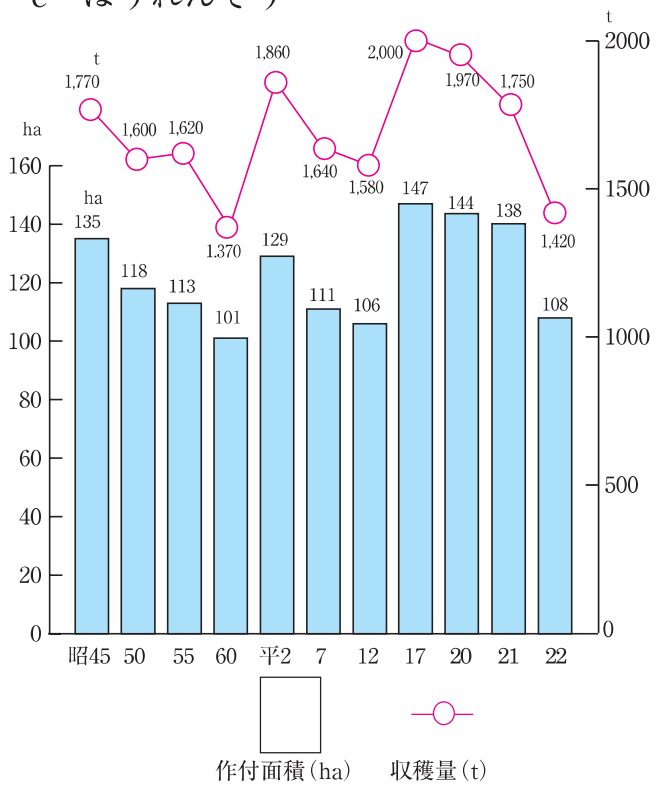
a　キャベツ



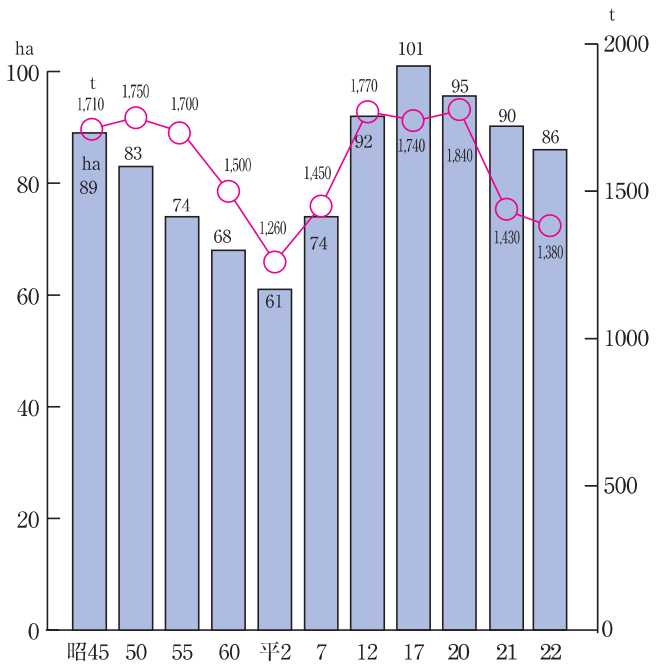
b　はくさい



c　ほうれんそう

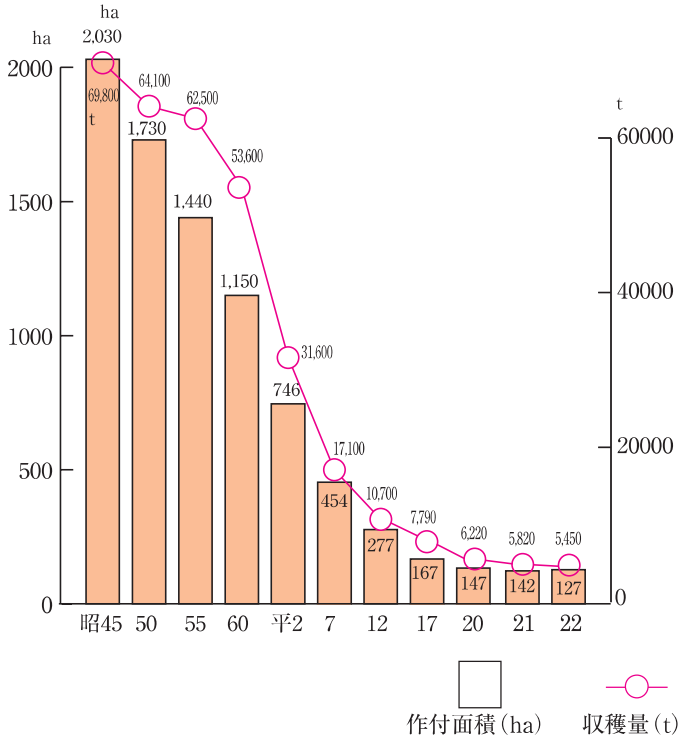


d　ね　ぎ

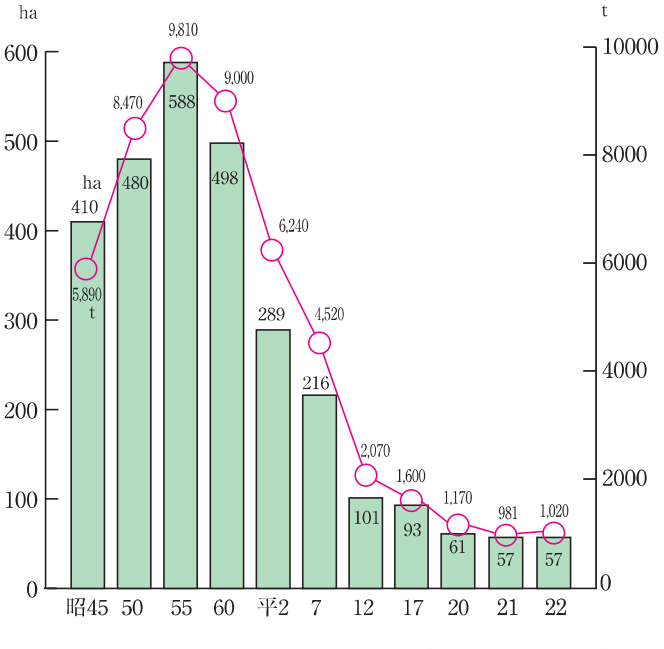


（野菜生産出荷統計）

e　たまねぎ

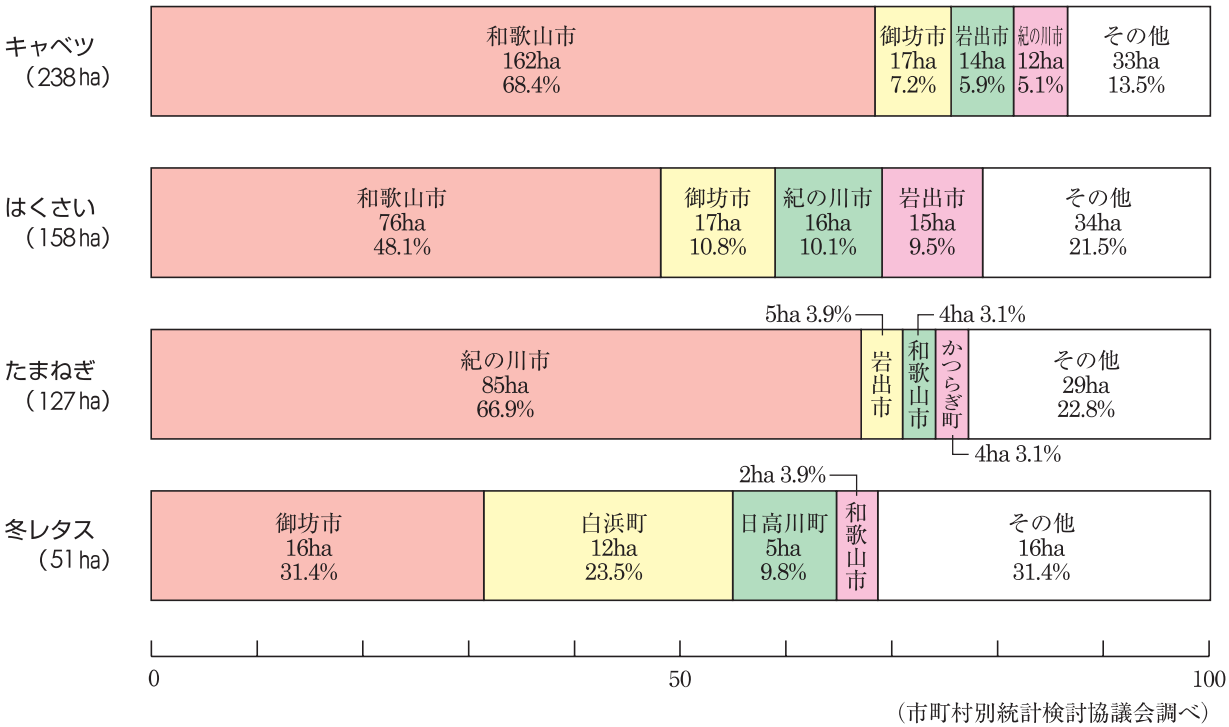


f　レタス



（野菜生産出荷統計）

市町村別・葉茎菜類の作付面積（平22）



（市町村別統計検討協議会調べ）

作　付　面　積（葉茎菜類）

（ha）

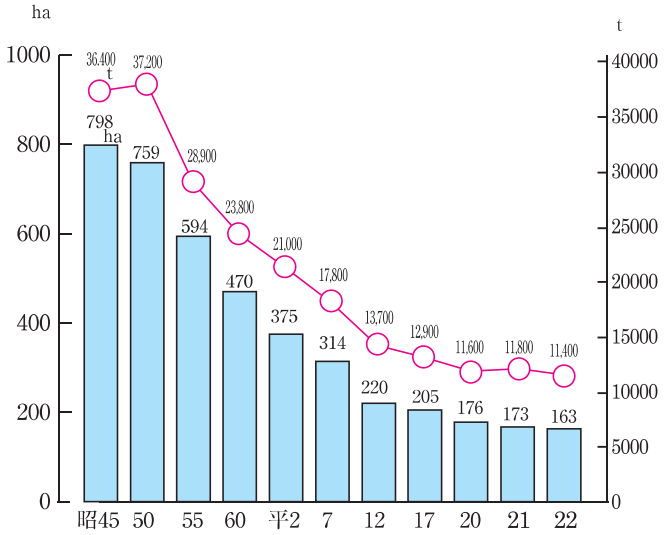
〔平22〕	全　国	和　歌　山　県			1位	2位	3位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
キ　ャ　ベ　ツ	33,300	238	33	0.7	愛　知	群　馬	千　葉
は　く　さ　い	18,300	158	32	0.9	茨　城	長　野	北海道
ほうれんそう	22,100	108	41	0.5	千　葉	埼　玉	群　馬
ね　　ぎ	23,100	86	46	0.4	千　葉	埼　玉	茨　城
た　ま　ね　ぎ	24,000	127	25	0.5	北海道	佐　賀	兵　庫
レ　　タ　　ス	20,900	57	32	0.3	長　野	茨　城	兵　庫

※県順位は、公表されている統計数値から作成した。

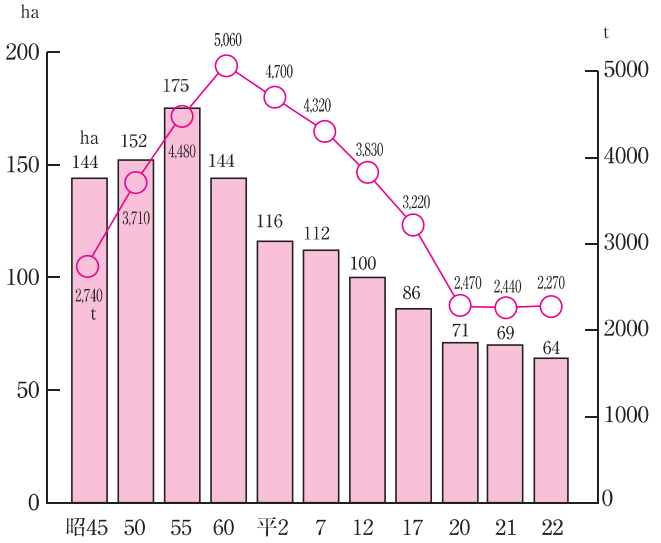
根菜類及び豆類の作付面積と収穫量の推移

● だいこん・にんじん・さといも・えんどう：栽培面積の減少が続いていたが、その傾向は近年やや鈍化している。

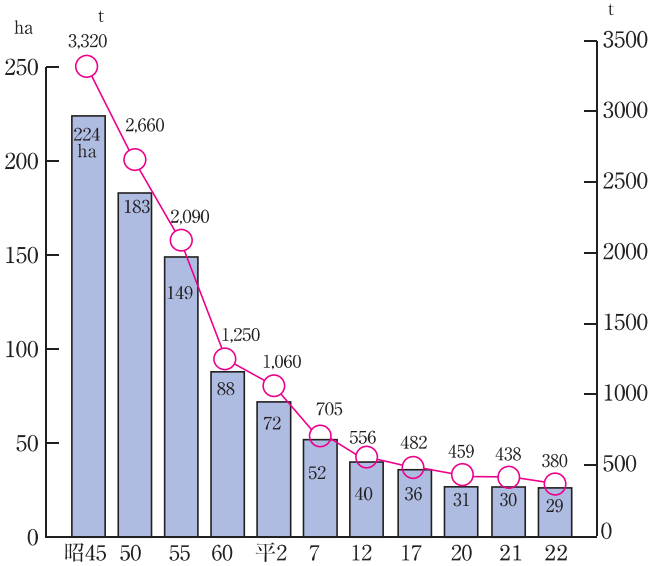
a　だいこん



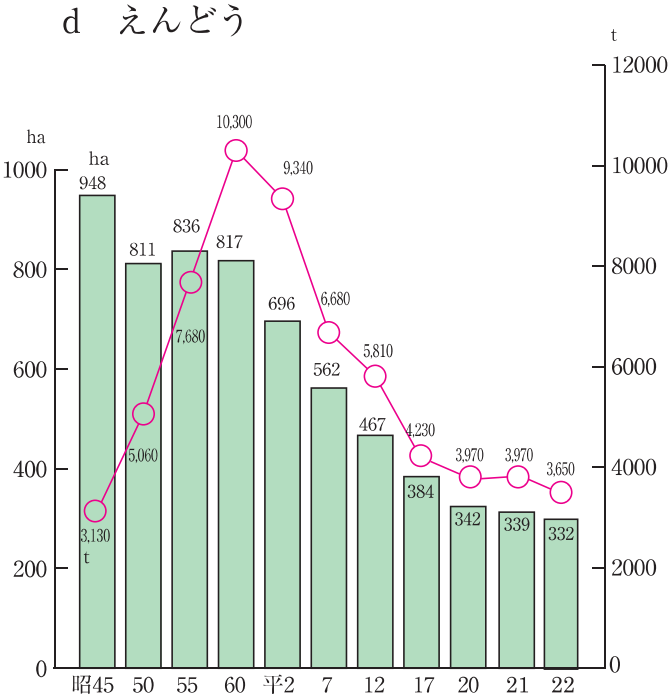
b　にんじん



c　さといも



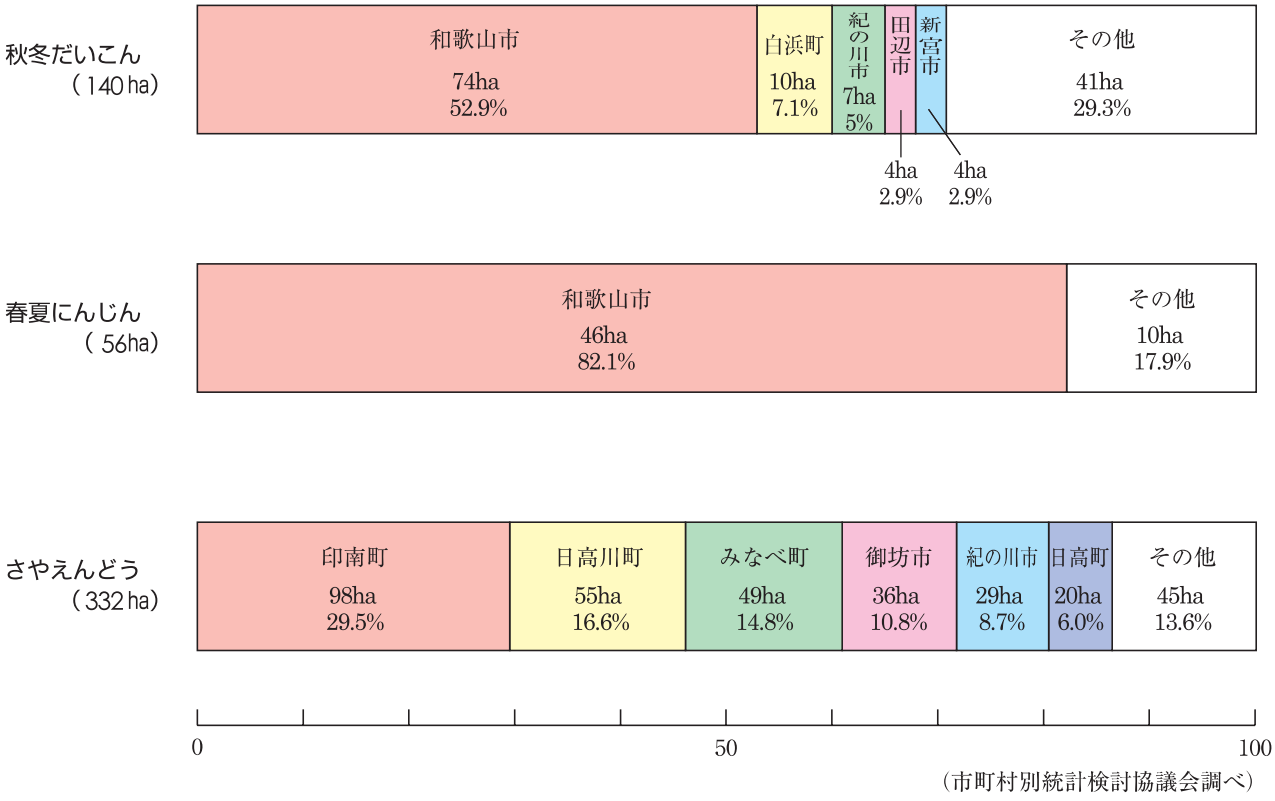
d　えんどう



作付面積（ha）　収穫量（t）

（野菜生産出荷統計）

市町村別・根菜類及び豆類の作付面積（平22）



（市町村別統計検討協議会調べ）

作　付　面　積（根菜類・豆類）

（ha）

〔平22〕	全　国	和　歌　山　県			1位	2位	3位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
だ　い　こ　ん	35,700	163	42	0.5	北海道	青　森	千　葉
に　ん　じ　ん	19,000	64	35	0.3	北海道	千　葉	青　森
さ　と　い　も	13,800	29	44	0.2	千　葉	宮　崎	鹿児島
え　ん　ど　う	4,130	332	3	8.0	鹿児島	福　島	和歌山

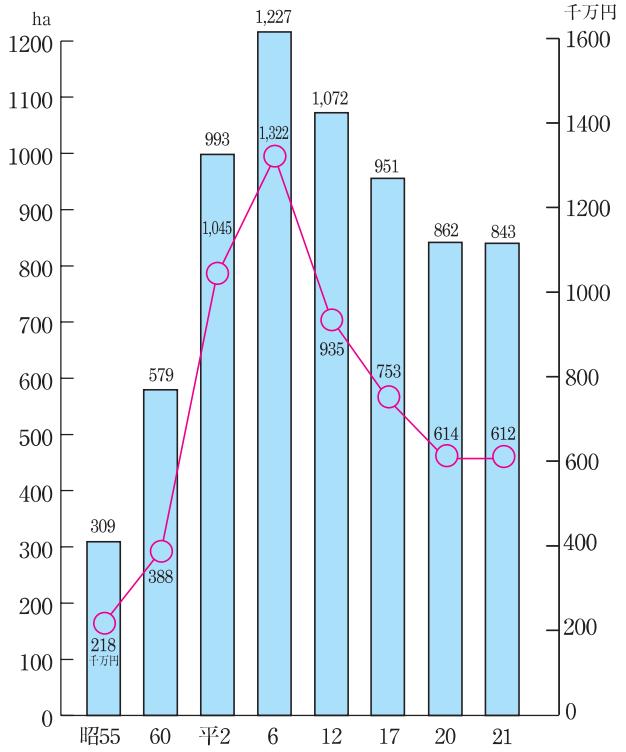
※県順位は、公表されている統計数値から作成した。

（野菜生産出荷統計）

花き生産の推移

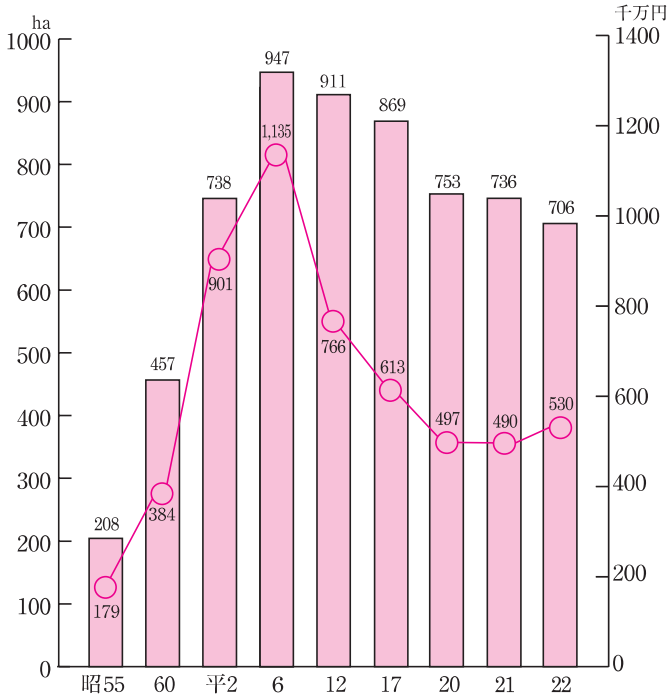
花き全体の栽培面積は平成60年から平成２年にかけ需要の増加や野菜からの転換により急激に増加している。その後の推移は平成６年をピークに減少している。

a　総　計



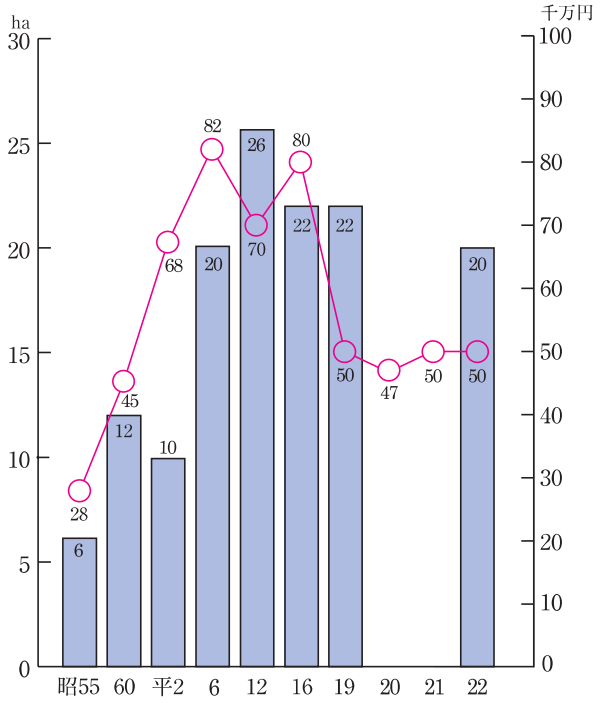
（花き生産出荷統計、花木等生産状況調査、生産農業所得統計）

b　切　花



（花き生産出荷統計、生産農業所得統計）

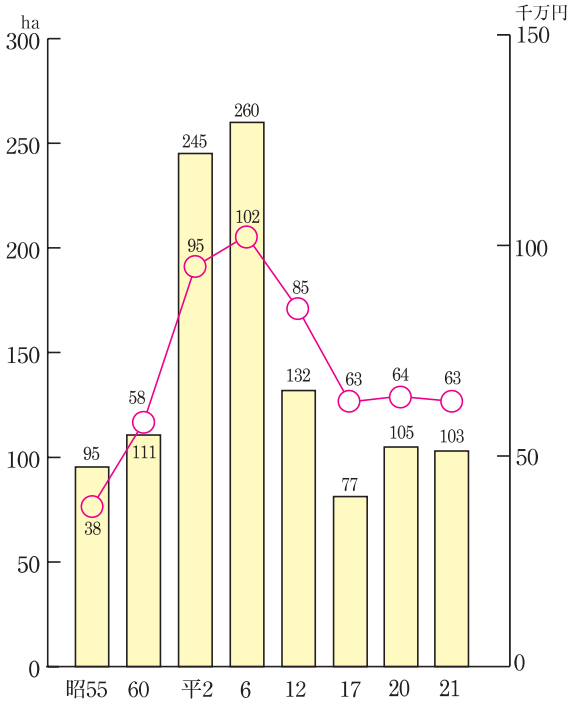
c　鉢物・花壇苗



※平20・21の作付面積の数値はない。

（花き生産出荷統計、生産農業所得統計）

d　花木類



（花木等生産状況調査）

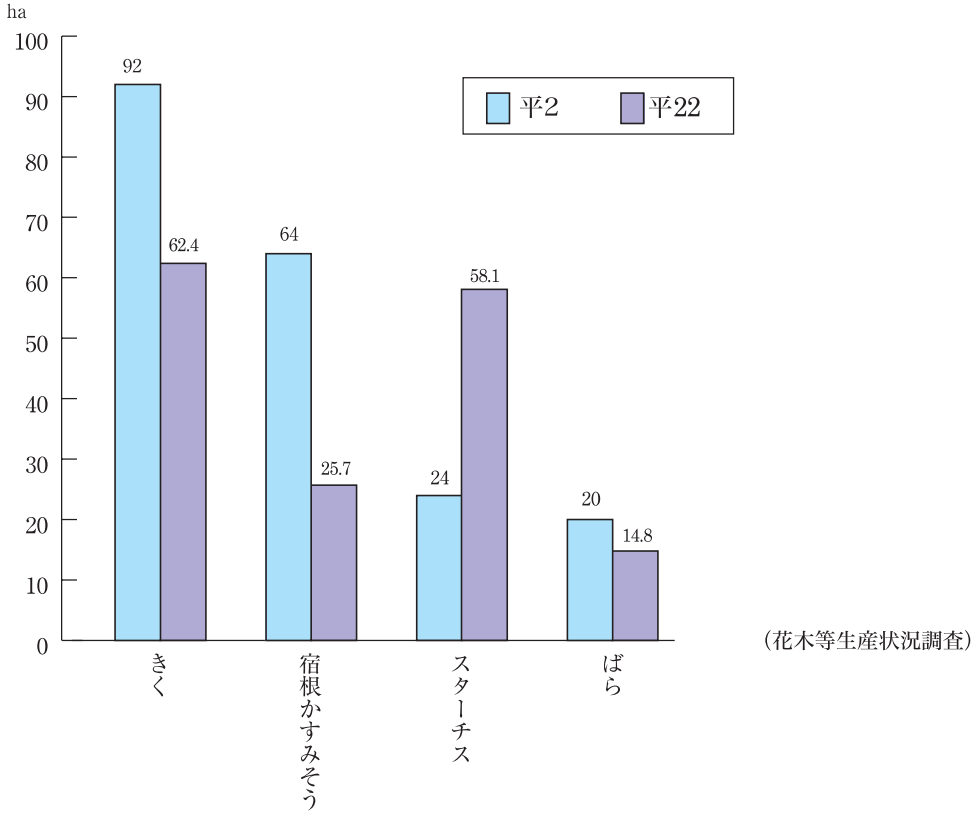
作付面積（ha）　産出額（千万円）

※ただし、金額のうち、a総計の一部（花木類、地被植物類）及びd花木類については出荷額

産出額：品目別生産量×品目別農家庭先販売価格

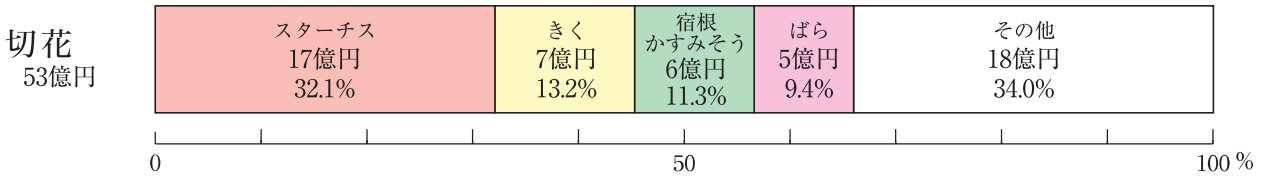
出荷額：出荷された農作物の金額

主要切花の作付面積



（花木等生産状況調査）

切花生産額の品目別割合（平22）



（花木等生産状況調査）

産　出　額（花　き）

（億円）

〔平22〕	全　国	和　歌　山　県			1 位	2 位	3 位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
ス　タ　ー　チ　ス	46	17	2	37.0	北海道	和歌山	長　野
宿根かすみそう	34	6	2	17.6	熊　本	和歌山	福　島

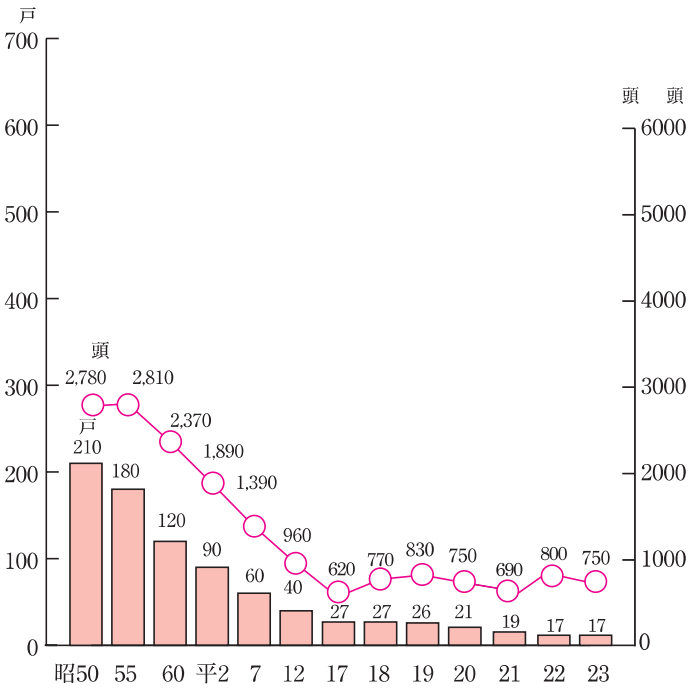
（花木等生産状況調査）

家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数の推移

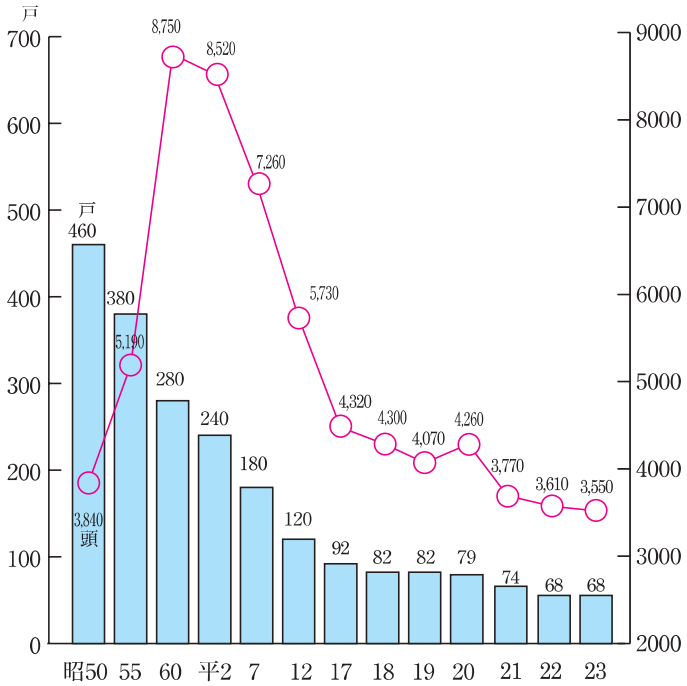
畜産農家数及び飼養頭羽数は減少傾向であるが近年は横ばいで推移している。

（採卵鶏の農家戸数は平成元年より300羽以上のみ、平成9年より1,000羽以上のみ、平成14年より種鶏農家除く。）

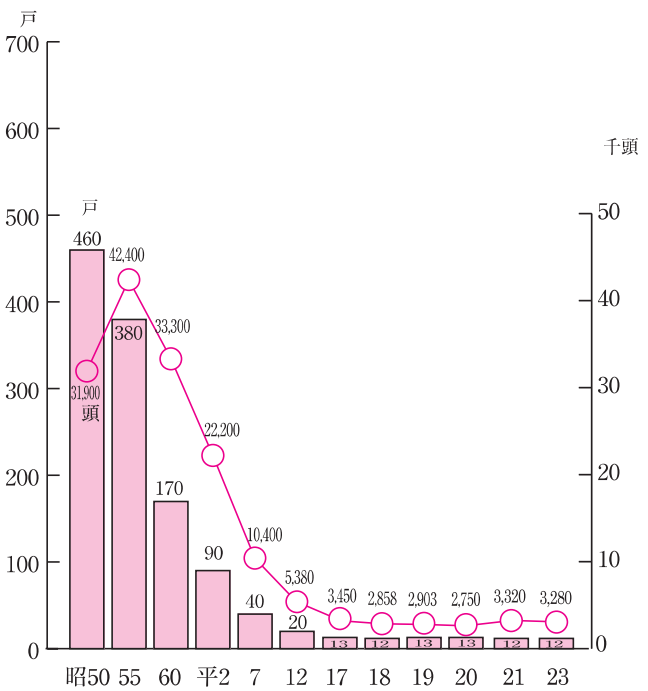
a　乳用牛



b　肉用牛



c　豚

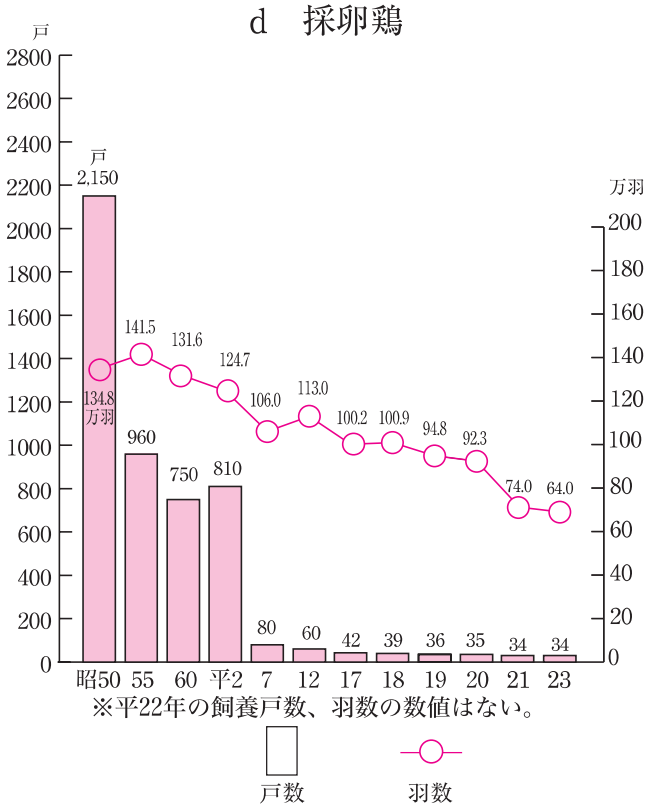


※平22年の飼養戸数、頭数の数値はない。

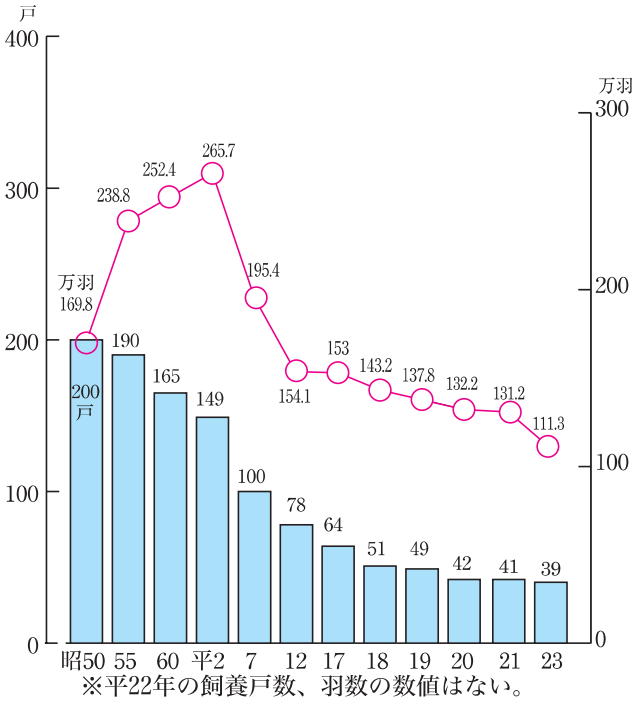
戸数　　頭数

（農林水産統計年報）

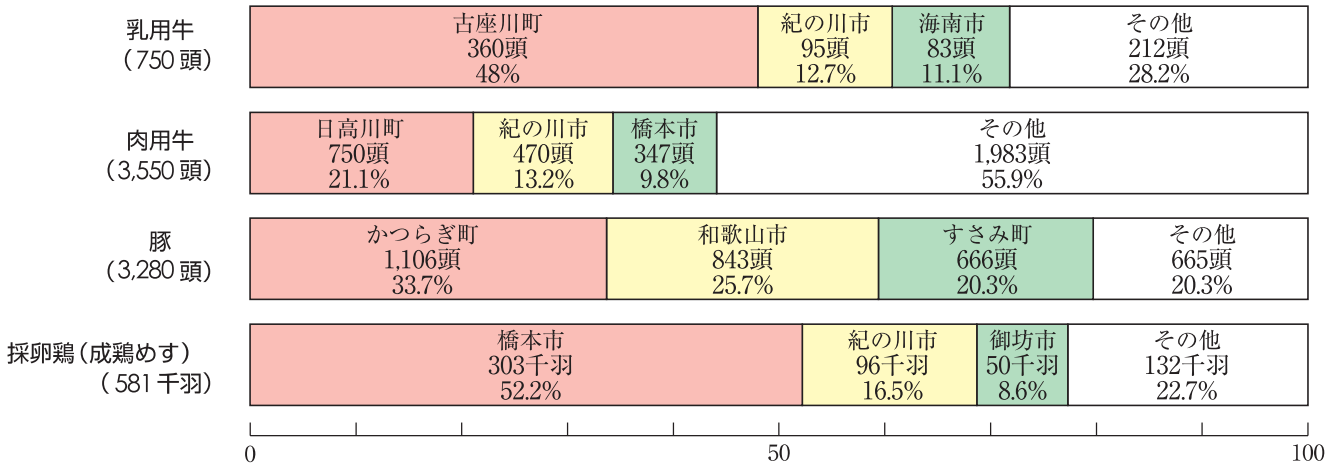
d　採卵鶏



e　ブロイラー



市町村別・家畜飼養頭羽数（平23：乳用牛、肉用牛、豚・採卵鶏（成鶏めす））



（県畜産課業務資料）

家畜の飼養頭羽数・戸数

		全国	和歌山県			1位	2位	3位
		実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
飼養頭羽数	乳用牛（頭）	1,467,000	750	47	0.1	北海道	栃木	熊本
	肉用牛（頭）	2,763,000	3,550	43	0.1	北海道	鹿児島	宮崎
	豚（頭）	9,768,000	3,280	47	0.1	鹿児島	宮崎	千葉
	採卵鶏（千羽）	175,917	640	40	0.4	茨城	千葉	鹿児島
飼養戸数（戸）	乳用牛	21,000	17	47	0.1	北海道	岩手	栃木
	肉用牛	69,600	68	42	0.1	鹿児島	宮崎	岩手
	豚	6,010	12	45	0.2	鹿児島	宮崎	茨城
	採卵鶏	2,930	34	31	1.2	愛知	茨城	鹿児島 千葉

（農林水産統計年報）〔平23.2.1現在〕

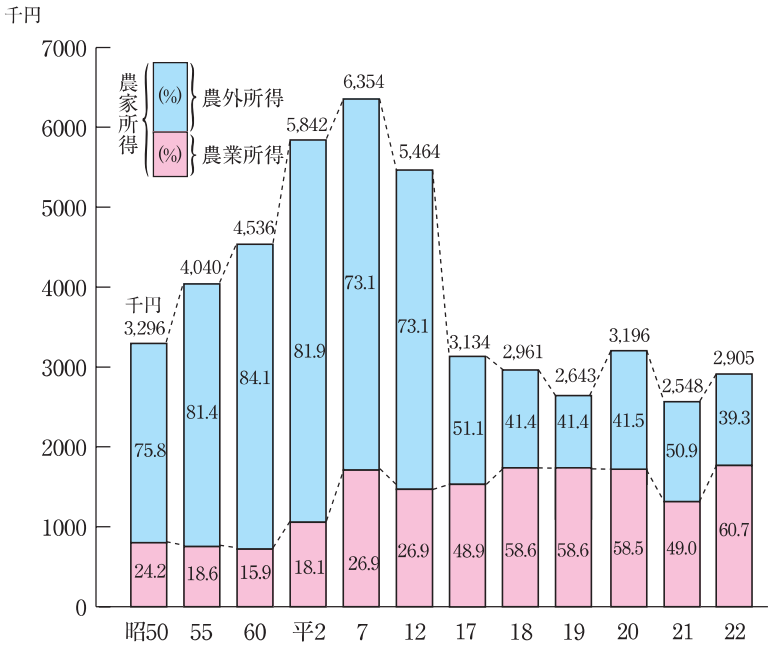
5）農業所得と農業産出額

農業産出額はピークの平成３年で1,737億円となり、昭和45年に比べ3.0倍となっている。しかし、平成11年以降ピーク時の60～70%程度の産出額で推移している。

また、生産農業所得も同様の傾向で平成22年は303億円となり、農家所得の推移も平成８年をピークに減少傾向にある。

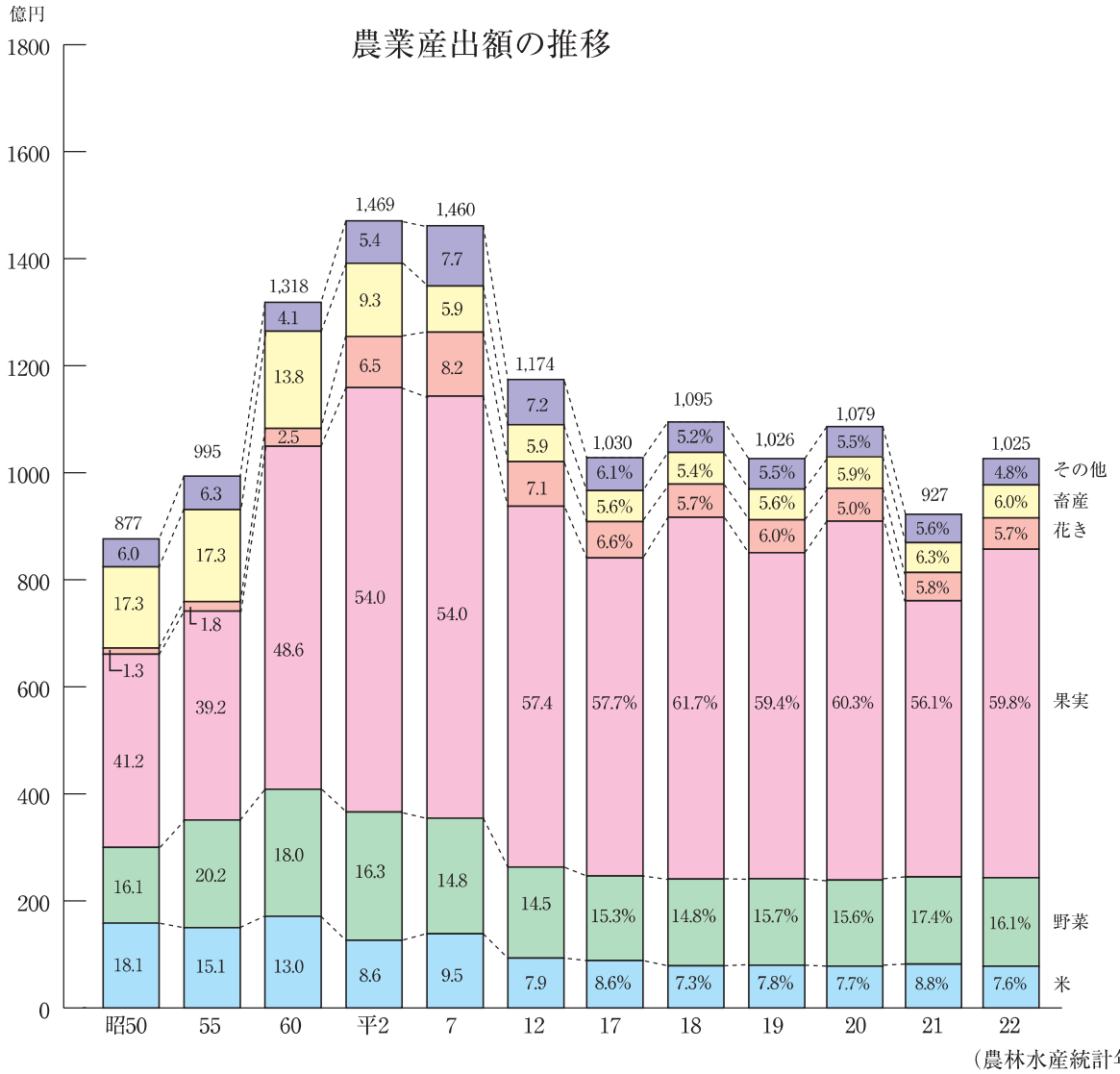
※本調査は、平成16年より調査対象及び調査内容が変更されていますので、ご利用の際はご注意下さい。

農家所得の推移



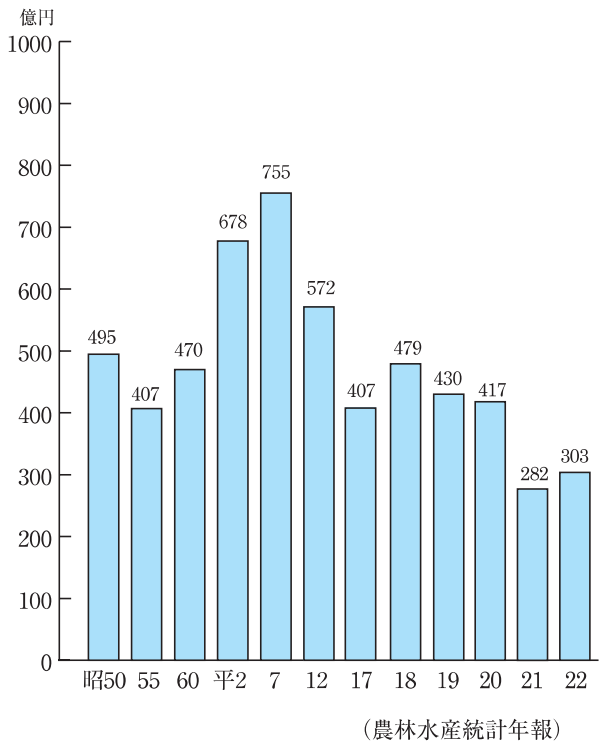
（農林水産統計年報）

農業産出額の推移



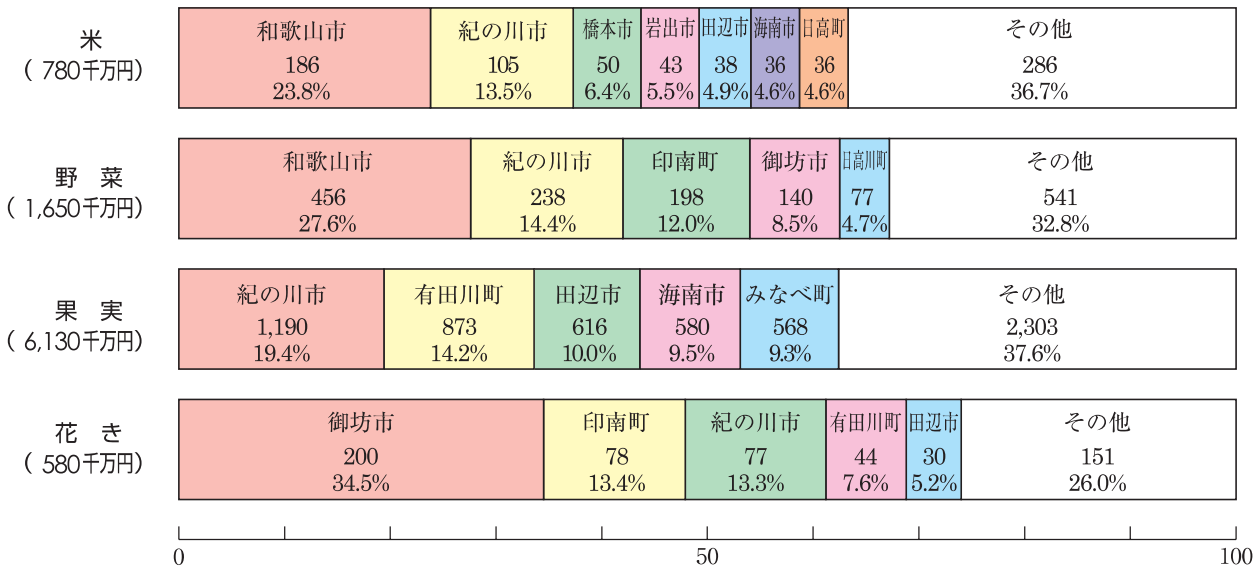
（農林水産統計年報）

生産農業所得（県計）の推移



（農林水産統計年報）

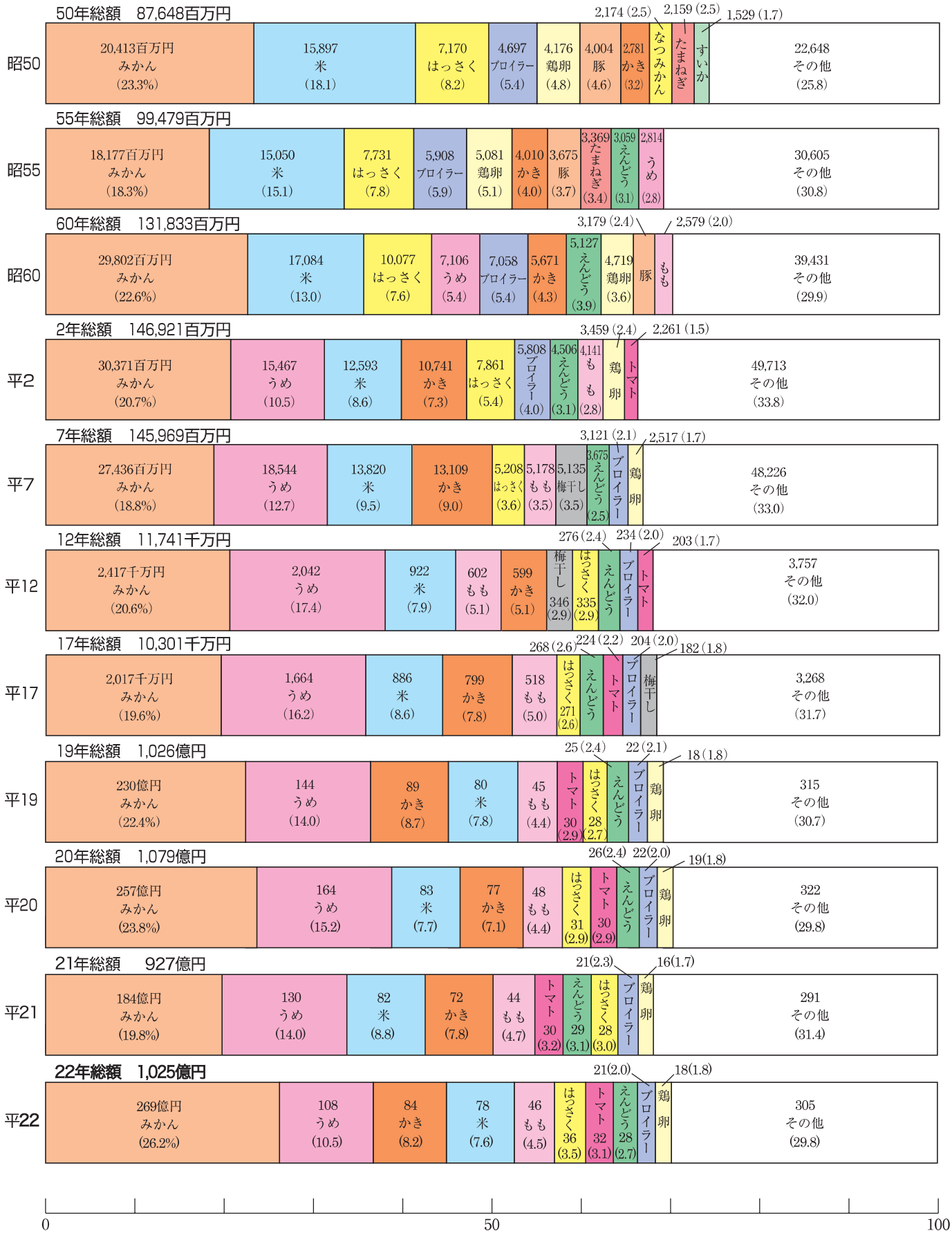
市町村別・部門別農業産出額（平22）



（市町村別統計検討協議会調べ）

農産物産出額上位10品目の推移

平成22年の農産物生産額を品目別にみると、「うめ」と「みかん」で全体の約37%を占めており、１位みかん、２位うめ、３位かき、４位米、５位ももとなっている。



6）農業農村整備事業の基盤整備状況

農業農村整備事業における基盤の整備状況は、畑の農道整備55.4%、かんがい施設整備33.6%、区画整理6.8%で田の区画整理は14.8%となっている。整備済みの農業水利施設については、本格的な保全対策を進めています。

1　畑（果樹園・普通畑）の整備状況

項目＼年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
畑面積(ha)	24,700	25,200	25,400	25,300	25,100	24,800	22,300
農道整備済面積(ha)	11,936	12,164	12,167	12,175	12,204	12,253	12,344
整備率(%)	48.3	48.3	47.9	48.1	48.6	49.4	55.4
畑地かんがい施設整備済み面積(ha)	7,269	7,499	7,495	7,501	7,501	7,501	7,501
整備率(%)	29.4	29.8	29.5	29.6	29.9	30.2	33.6
区画整理済み面積(ha)	1,513	1,516	1,516	1,516	1,520	1,520	1,525
整備率(%)	6.1	6.0	6.0	6.0	6.1	6.1	6.8

・農道整備済みとは、末端農道が整備された畑
・畑地かんがい施設整備済みとは、スプリンクラー等の施設が整備されている畑、及び、水源が確保され必要に応じて散水が可能な畑
・区画整理には、農地造成を含む

2　田の整備状況

項目＼年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
田面積(ha)	11,800	11,700	11,400	11,200	10,900	10,700	10,700
区画整理済み面積(ha)	1,540	1,554	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
整備率(%)	13.1	13.3	13.9	14.2	14.6	14.8	14.8

・区画整理には、30a未満の小区画を含む。

3　土地改良施設の整備状況

項目＼年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
農業水利施設延長(km)	−	−	682	682	682	682	682
保全対策済み延長	−	−	8	16	24	40	50
ため池の箇所数	5,566	5,566	5,566	5,566	5,566	5,566	5,566
整備済み箇所数	984	1,014	1,051	1,090	1,115	1,136	1,143
整備率(%)	17.7	18.2	18.9	19.6	20.0	20.4	20.5
農業集落排水整備対象人口(人)	67,102	64,019	63,388	62,742	61,878	45,003	45,921
整備済み人口	35,257	35,833	40,857	41,045	43,302	43,250	43,527
整備率(%)	52.5	56.0	64.5	65.4	70.0	96.1	94.8
広域農道整備済み延長(km)	64.6	64.6	64.6	65.8	66.9	68.0	68.9

・農業水利施設延長は、県営事業以上で造成された幹線施設延長
・広域農道の整備済み延長は供用開始済みの延長

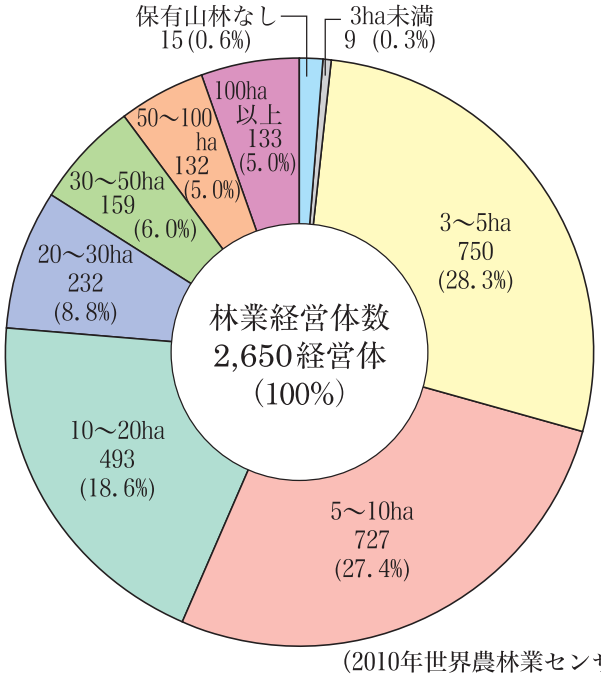
2 林業部門

1）林業を担う経営体（林業経営体）

本県の林業経営体数は、2,650経営体となっており、保有山林規模別では、10ha以下の経営体が総数の56%を占め、規模の小さな経営体が多い。

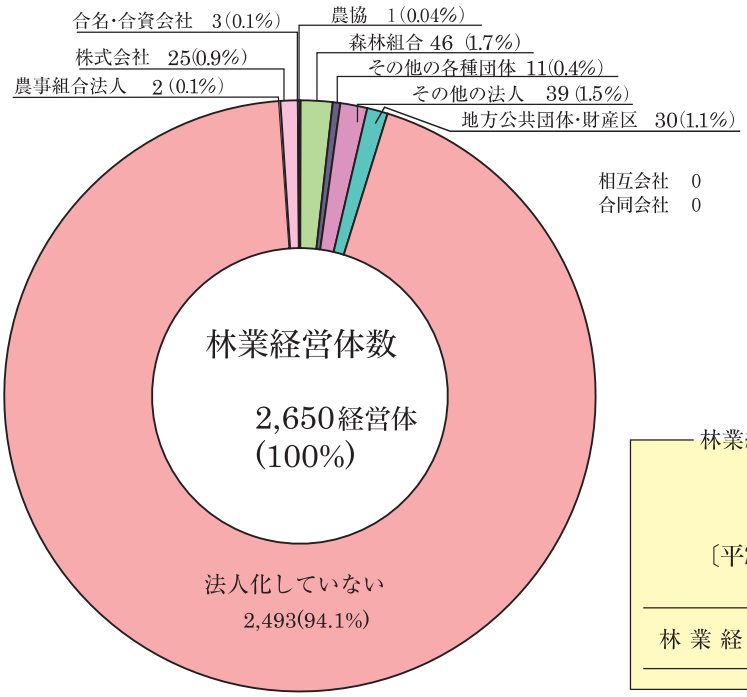
また、組織形態別では、法人化していない経営体が94%を占めている。

保有山林規模別林業経営体数



（2010年世界農林業センサス）

組織形態別経営体数



（2010年世界農林業センサス）

林業経営体数

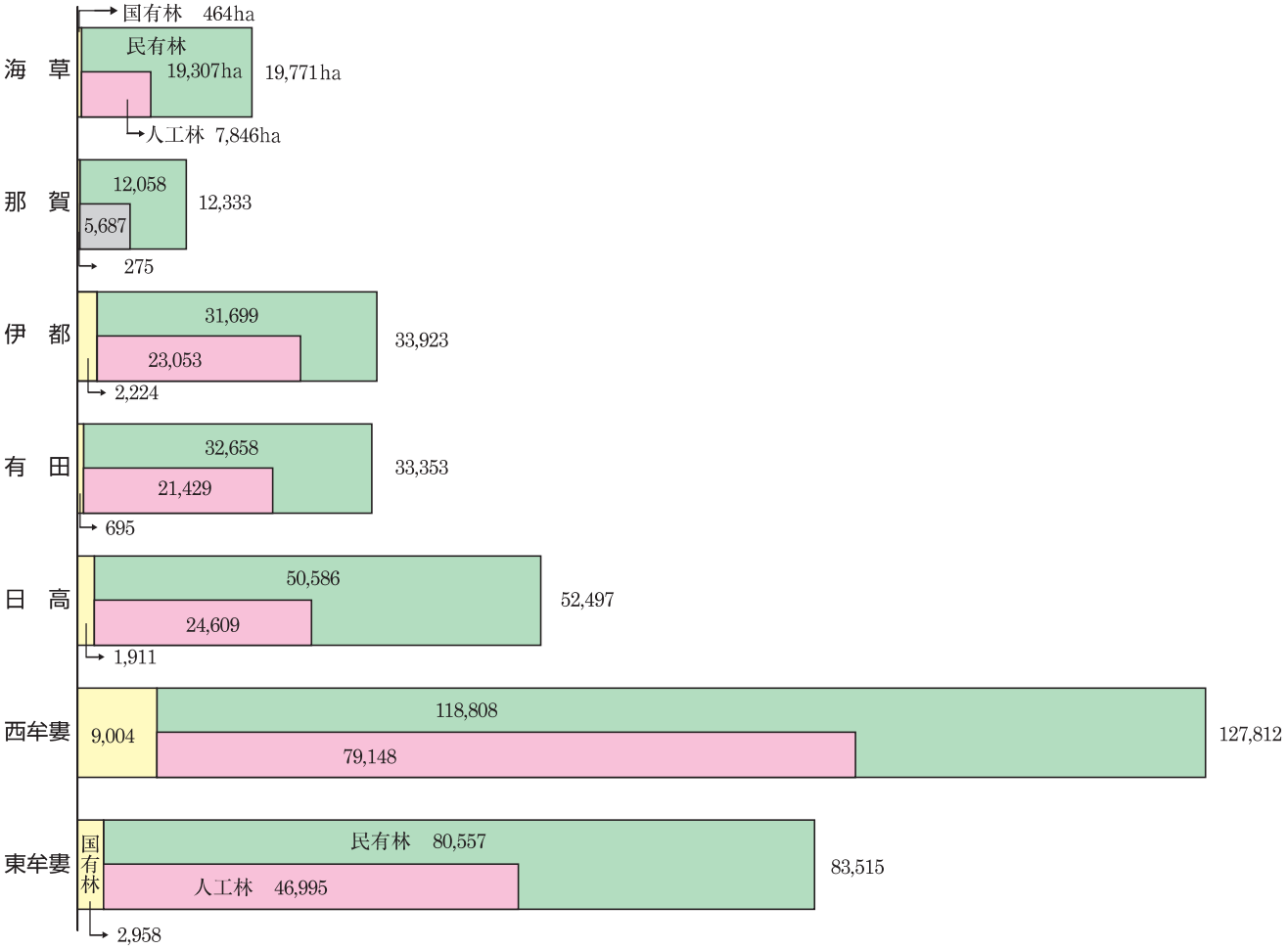
〔平22〕	全国	和歌山県			1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア（%）	県名	県名	県名
林業経営体数	140,186	2,650	24	1.9	北海道	岩手	岐阜

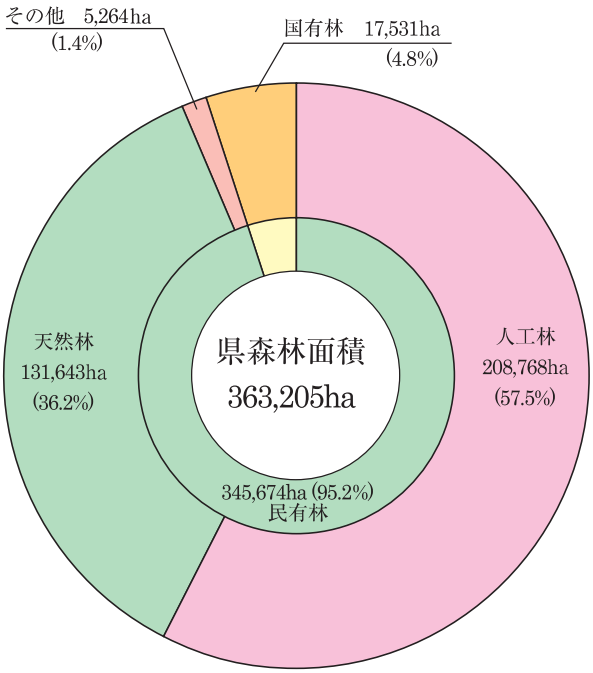
（2010年世界農林業センサス）

2）森林資源・林業生産基盤

郡別・森林面積（平23.4.1現在）

県の森林面積363,205haのうち、国有林は4.8%、民有林は95.2%で、民有林のうち、人工林は57.5%である。

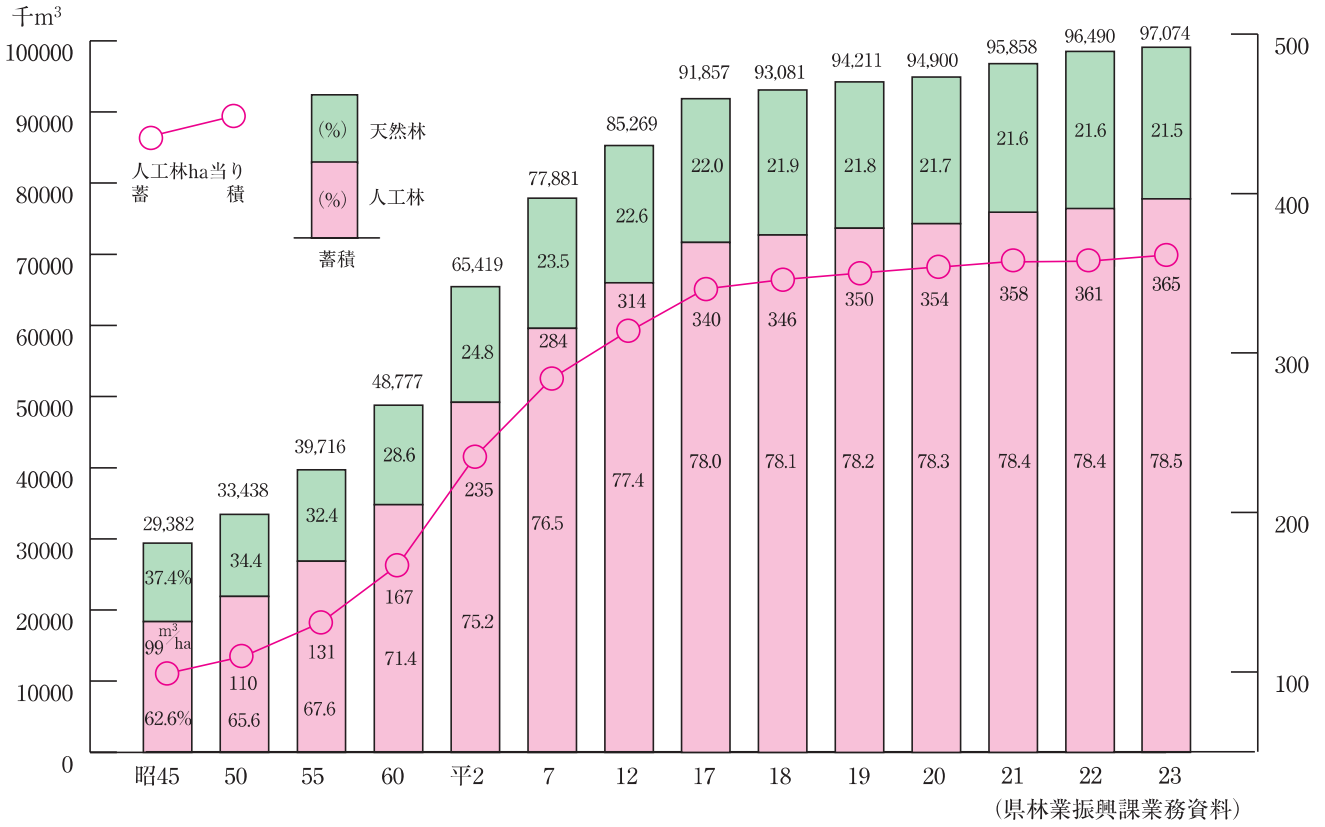




（県林業振興課業務資料）

森林資源（民有林蓄積）の推移　（地域森林計画対象森林：345,142ha）

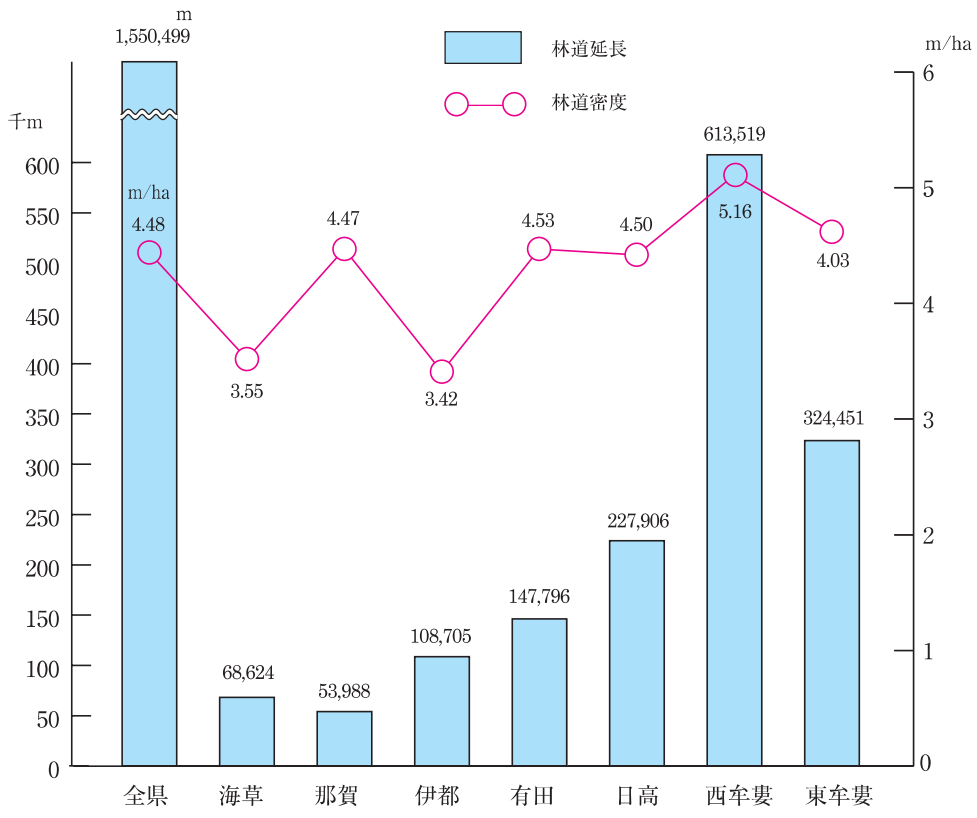
戦後植林された森林資源が成熟しつつある。



（県林業振興課業務資料）

郡別民有林林道延長及び林道密度（平22.3.31現在）

生産コストの縮減をはかるため、林道密度を高める必要がある。

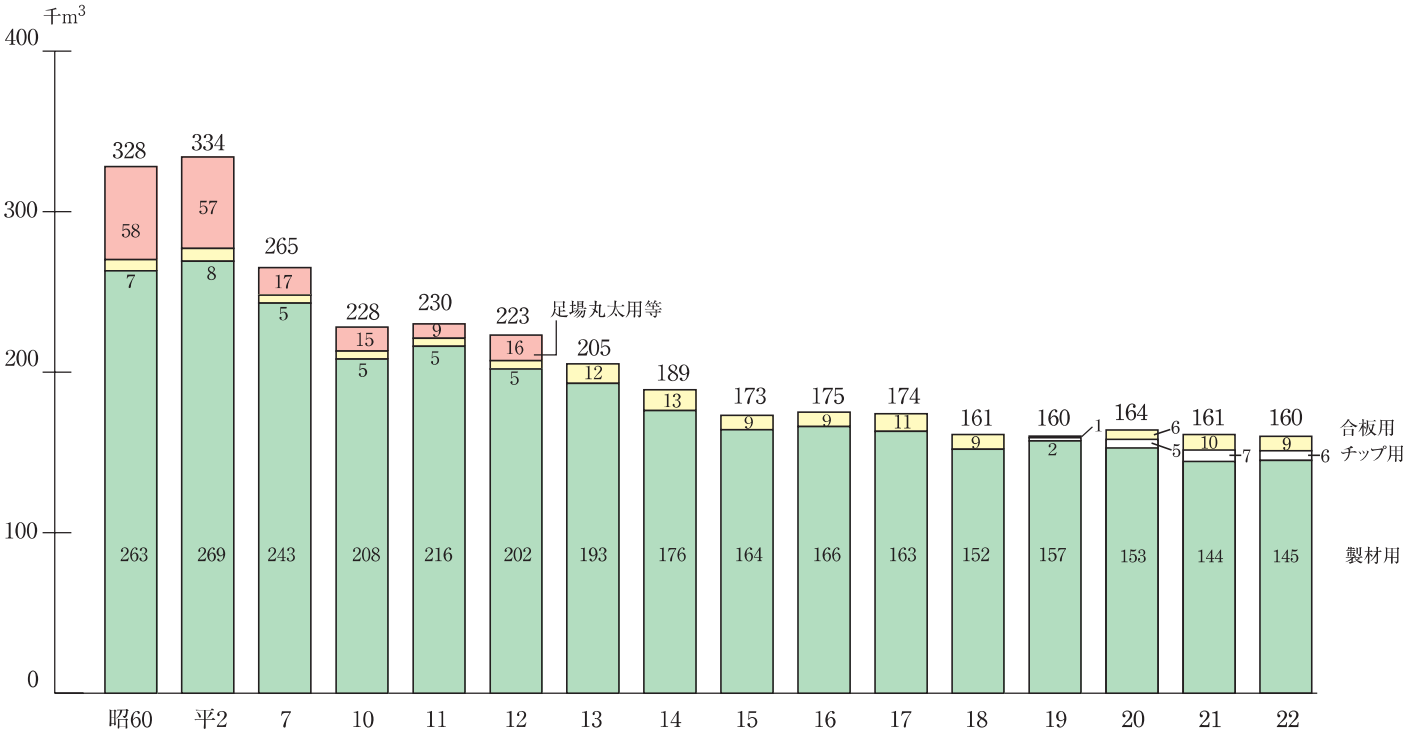


（県林業振興課業務資料　平成22年3月31日現在）

3）林業生産

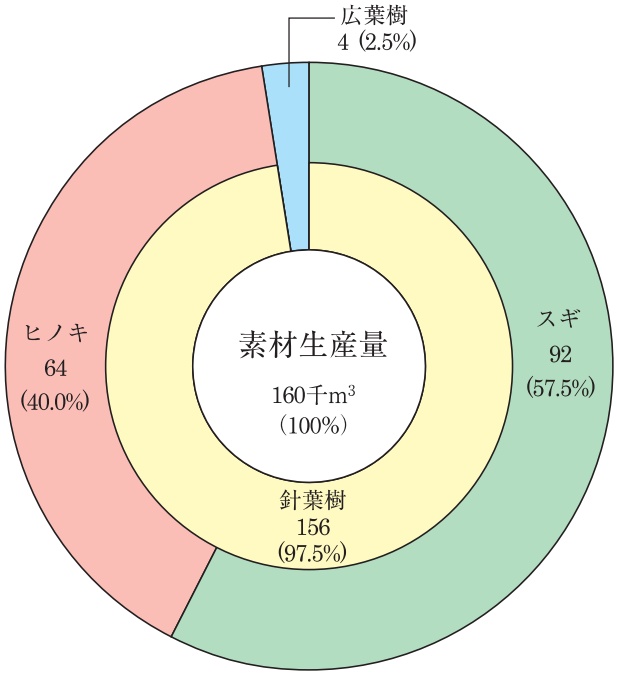
近年の木材生産活動は木材価格の低迷等から停滞している。
一方、最近では輸入製品価格の高騰などから、国産材の需要が高まりつつある。

用途別素材生産量の推移



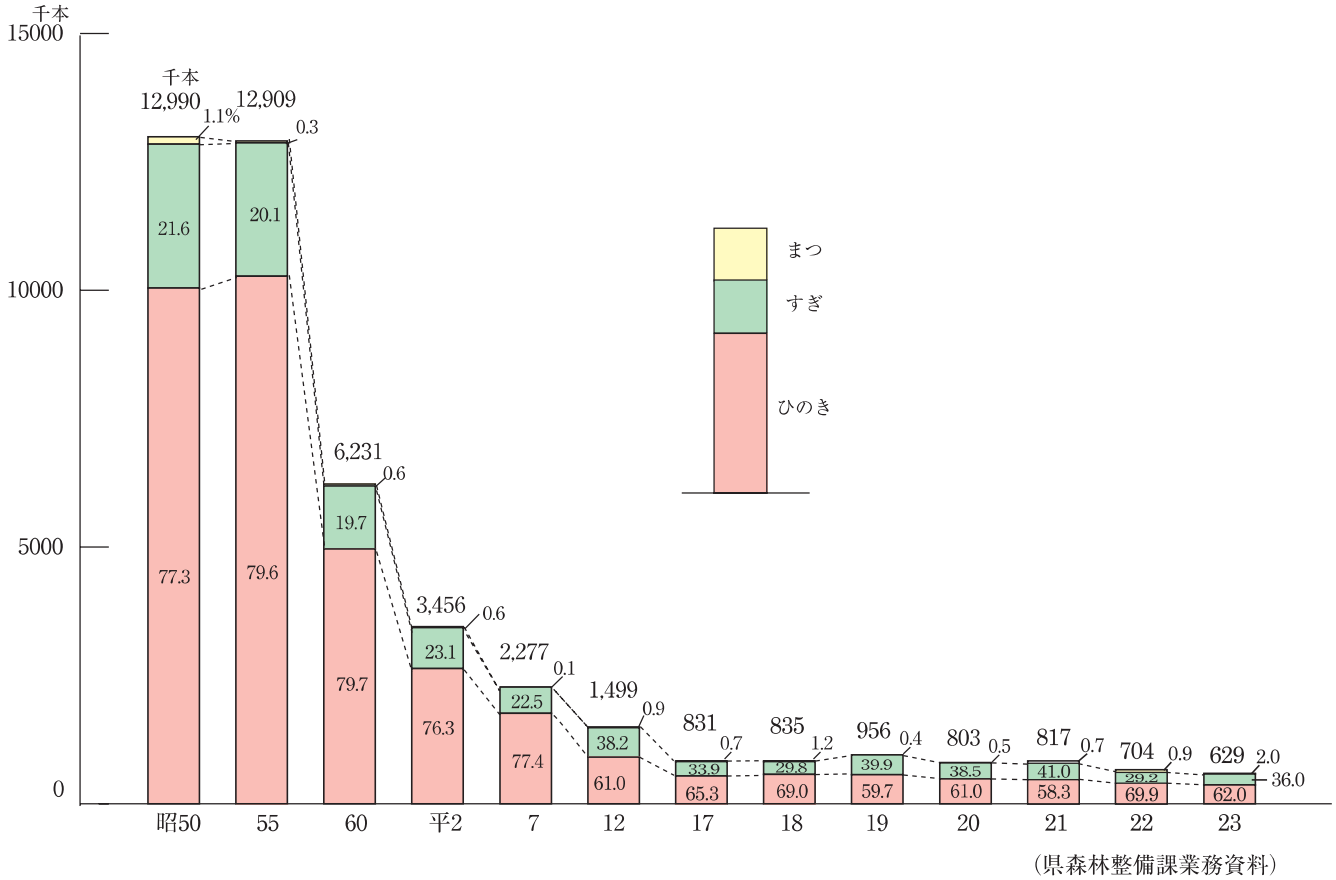
（木材需給報告書）

樹種別素材生産量（平22）



（木材需給報告書）

山用種苗生産本数の推移



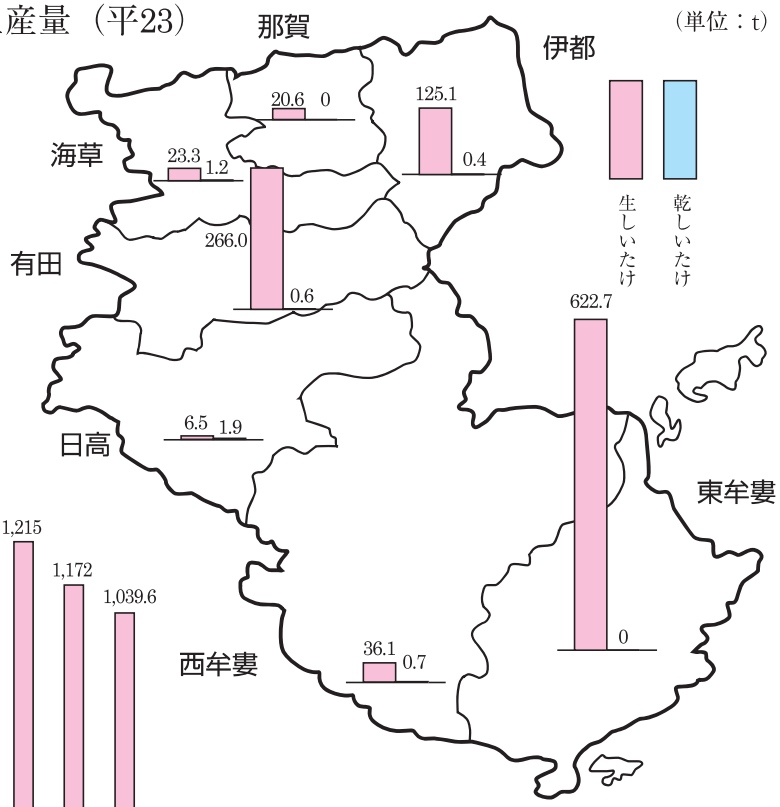
（県森林整備課業務資料）

素　材　生　産　量

〔平22〕		全　国	和　歌　山　県			1位	2位	3位
		実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
素材生産量	合　計(千m³)	17,193	160	28	0.9	北海道	宮　崎	岩　手
	針　葉　樹	14,789	156	26	1.1	北海道	宮　崎	岩　手
	す　　ぎ	9,049	92	29	1.0	宮　崎	秋　田	熊　本
	ひ　の　き	2,029	64	13	3.2	愛　媛	岡　山	熊　本
	広　葉　樹	2,404	4	41	0.2	北海道	岩　手	鹿児島

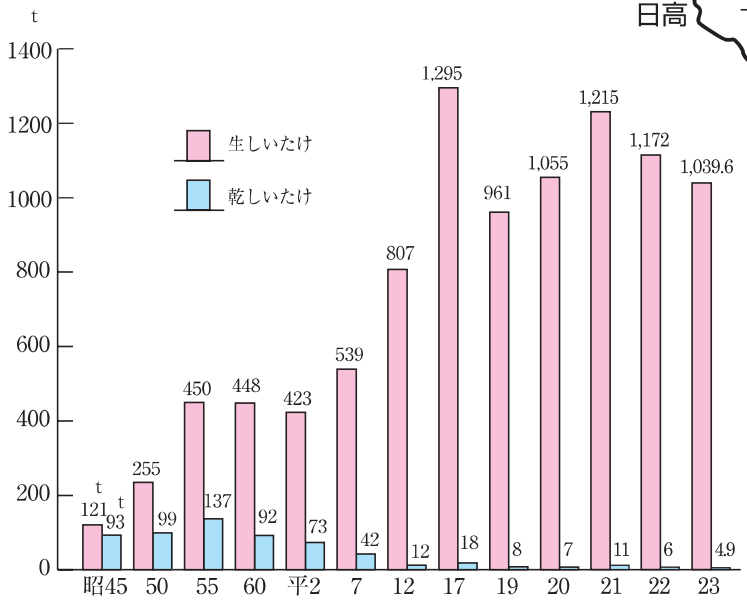
郡別・しいたけ生産量（平23）

（単位：t）



（県林業振興課業務資料）

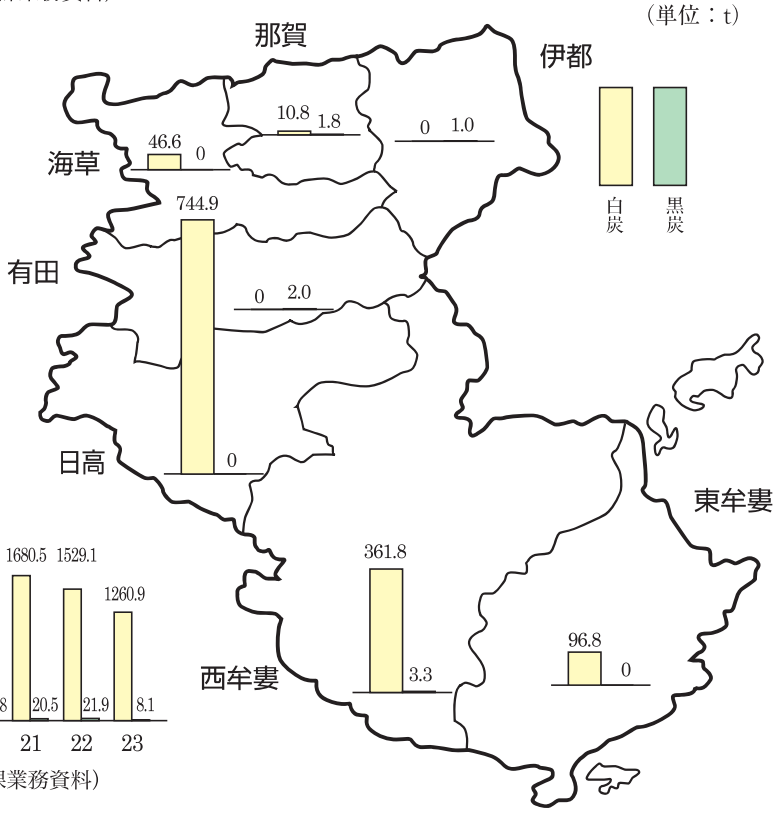
しいたけ生産量の推移



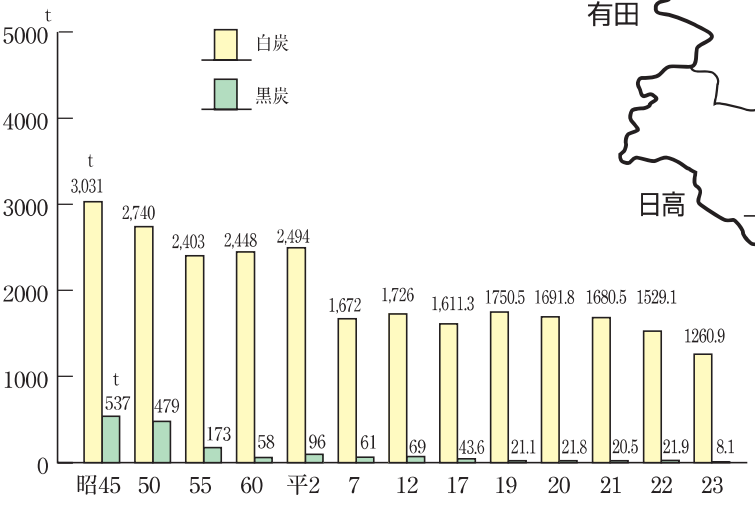
（県林業振興課業務資料）

郡別・木炭生産量（平23）

（単位：t）



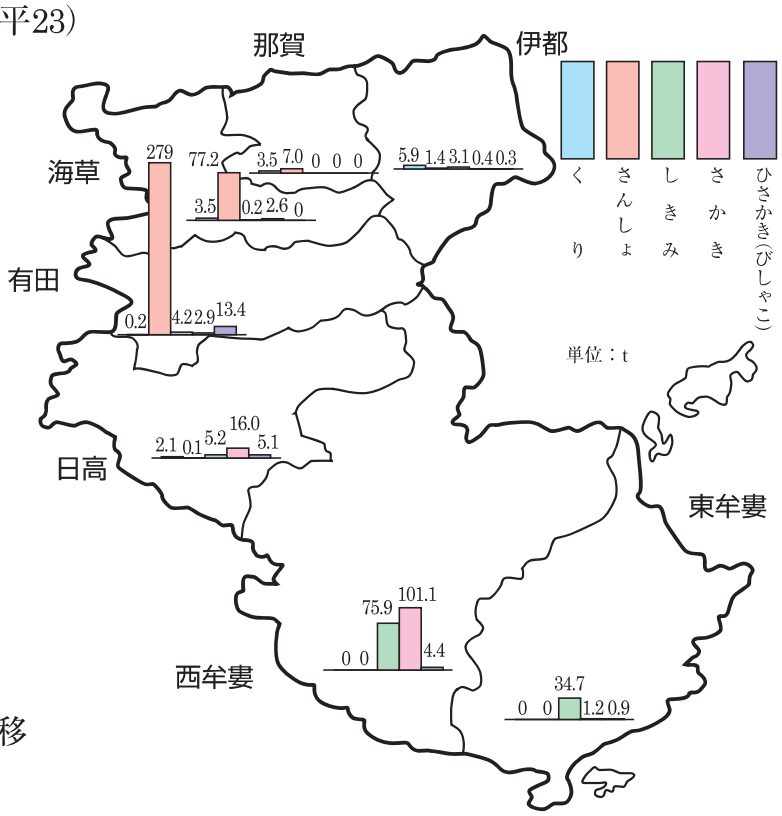
木炭生産量の推移



（県林業振興課業務資料）

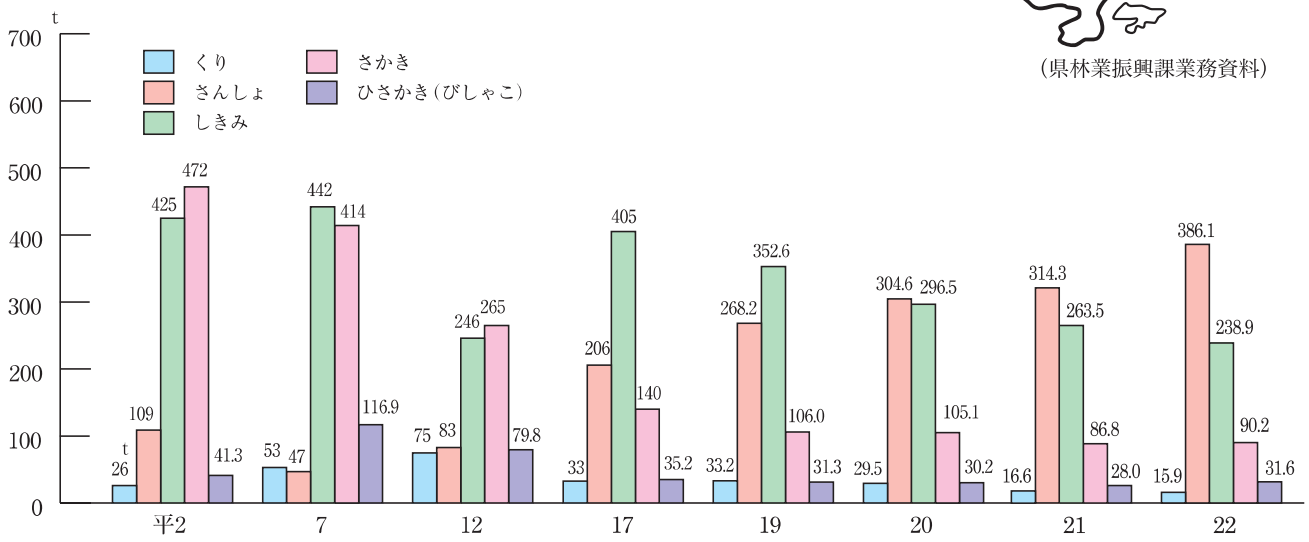
山村での主収入であった林業が低迷する中、副収入源であった特用林産物の収入に占める割合が増加してきた。

郡別・その他特用林産物生産量（平23）



（県林業振興課業務資料）

その他の特用林産物生産量の推移



（県林業振興課業務資料）

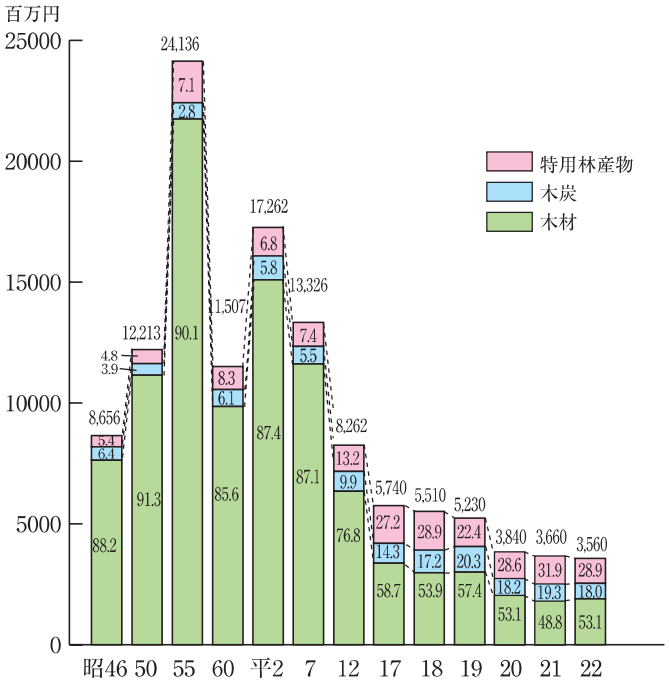
特用林産物生産量

〔平22〕 (t)	全国	和歌山県			1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
乾しいたけ	3,516.3	6.3	35	0.2	大分	宮崎	熊本
生しいたけ	77,079.0	1,171.6	19	1.5	徳島	岩手	北海道
白炭	3,421.4	1,529.1	1	44.7	和歌山	宮崎	高知
黒炭	10,326.4	21.9	43	0.2	岩手	大分	高知

4）林業所得と林業産出額

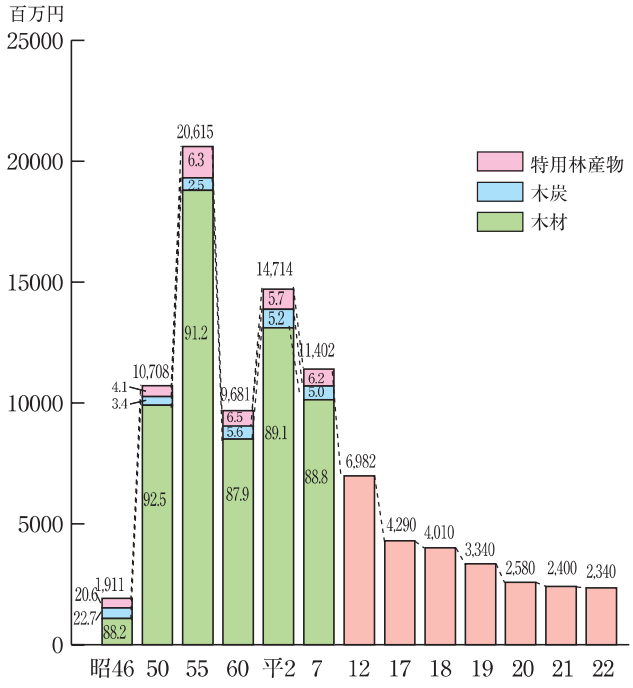
素材価格がピークであった昭和55年を契機に年々減少してきている。

林業産出額の推移



（生産林業所得統計報告書）

生産林業所得額の推移



（生産林業所得統計報告書）

※H10から内訳の計上がされていない

※枠内の数字はパーセントを表す

生 産 額

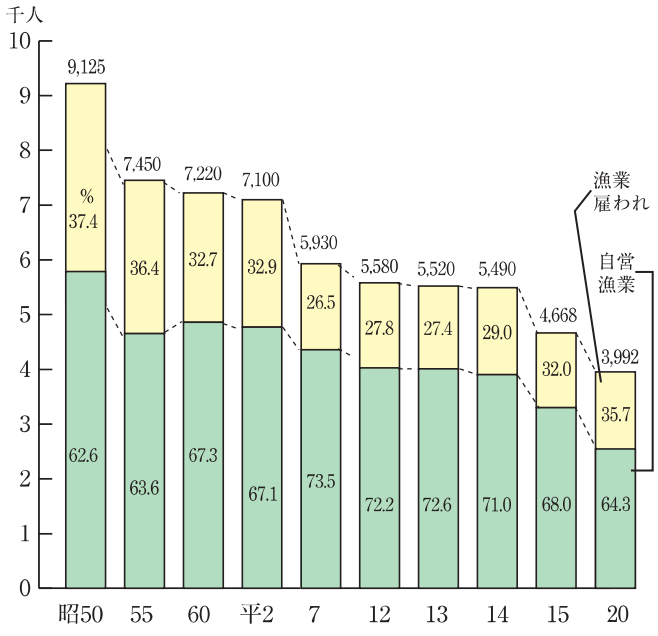
〔平22〕（千万円）		全国 実数	和歌山県 実数	順位	シェア(%)	1位 県名	2位 県名	3位 県名
林業産出額	総計	42,169	356	29	0.8	長野	北海道	新潟
	木材生産	19,455	189	27	1.0	北海道	宮崎	岩手
生産林業所得	総計	22,550	234	29	1.0	長野	北海道	宮崎

3 水 産 部 門

1）水産業を担う人々

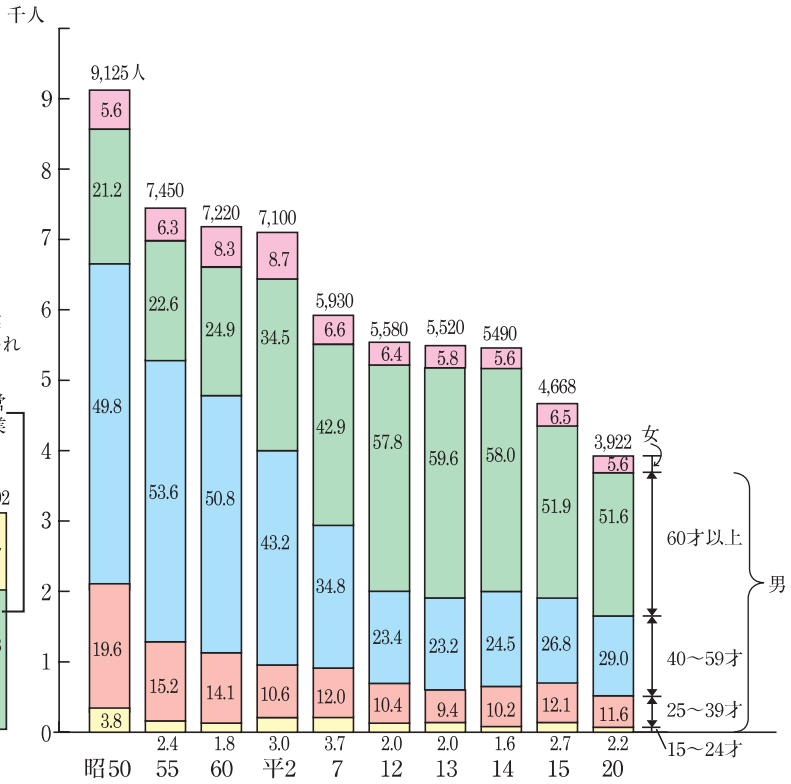
漁業就業者数は減少傾向で推移しており平成20年は3,922人である。
また、自営漁業就業者のうち年齢別では60才以上の男子就業者が51.6%を占め高齢化が進んでいる。

漁業就業者数の推移



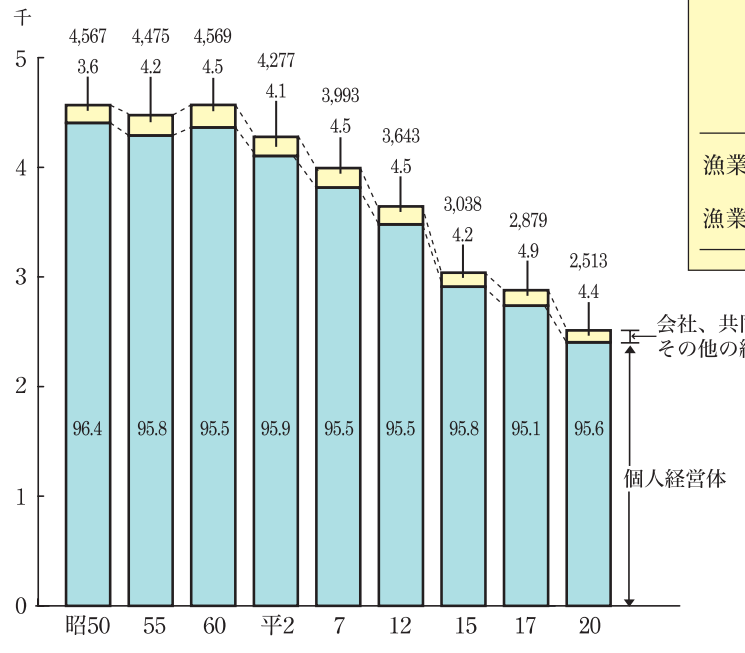
（農林水産統計年報）

年齢区分別漁業就業者数の推移



（農林水産統計年報）

漁業経営体数の推移



（農林水産統計年報）

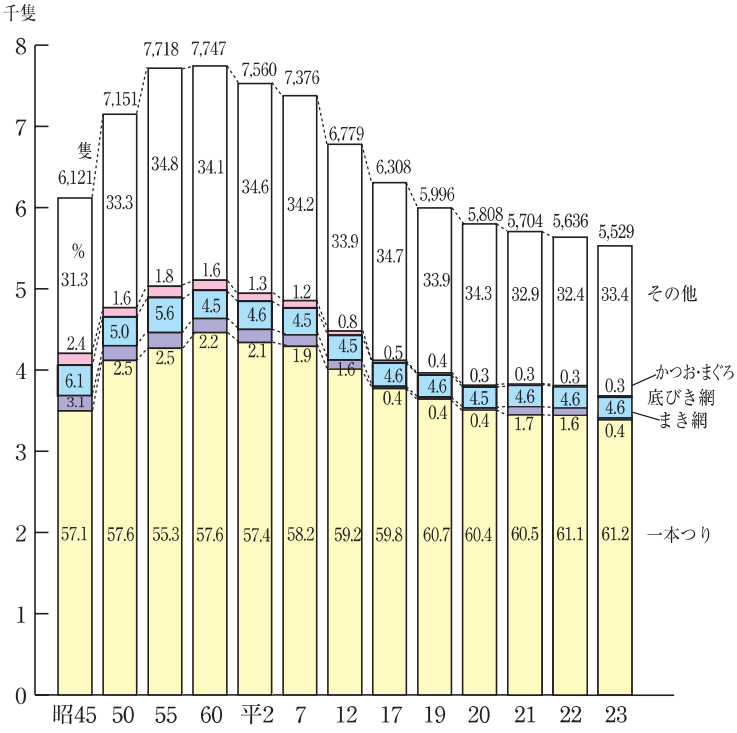
漁業経営体数等

〔平20〕	全国	和歌山県			1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
漁業経営体数	115,196	2,513	20	2.2	北海道	長崎	岩手
漁業就業者数(人)	221,908	3,922	22	1.8	北海道	長崎	青森

2）水産業の基盤

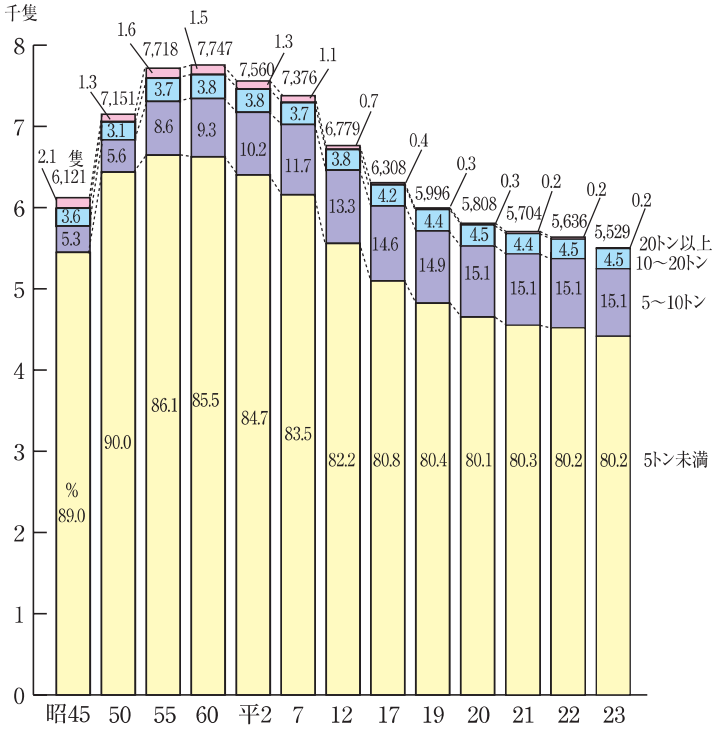
海水動力漁船数は昭和60年をピークに減少傾向で平成23年12月末日現在では5,529隻となっている。漁業種類別では「一本つり」が61.2%、「底びき網」4.6%である。トン数別では5ｔ未満の小型漁船が80.2%と大半を占めている。

漁業種類別海水動力漁船数の推移



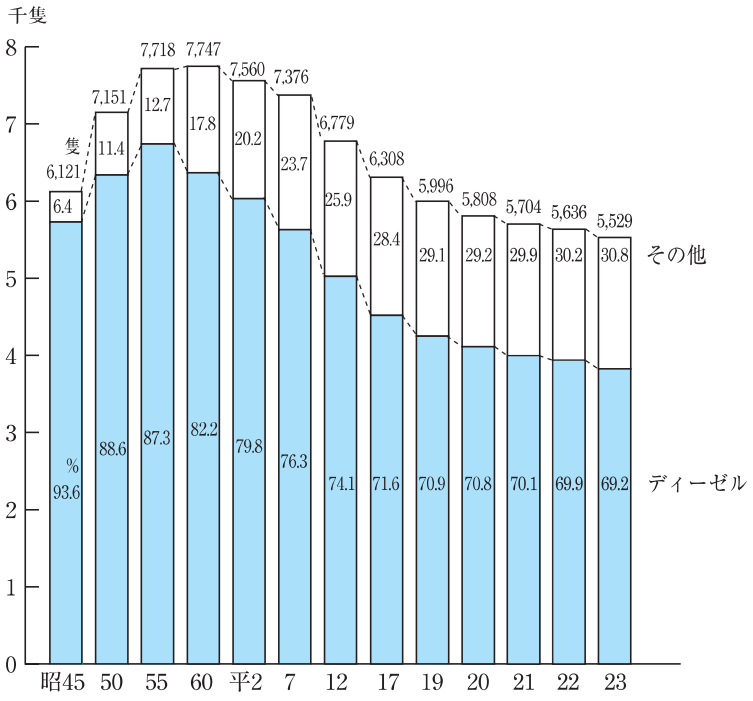
（県漁船統計表）

トン数階層別海水動力漁船数の推移



（県漁船統計表）

機関種類別海水動力漁船数の推移



（県漁船統計表）

漁港の現況

本県には、94港（全国2,914港）の漁港と、122地区（全国4,648地区）の漁業集落がある。また、漁港の種類は、漁船の利用範囲によって下表のように分類されている。

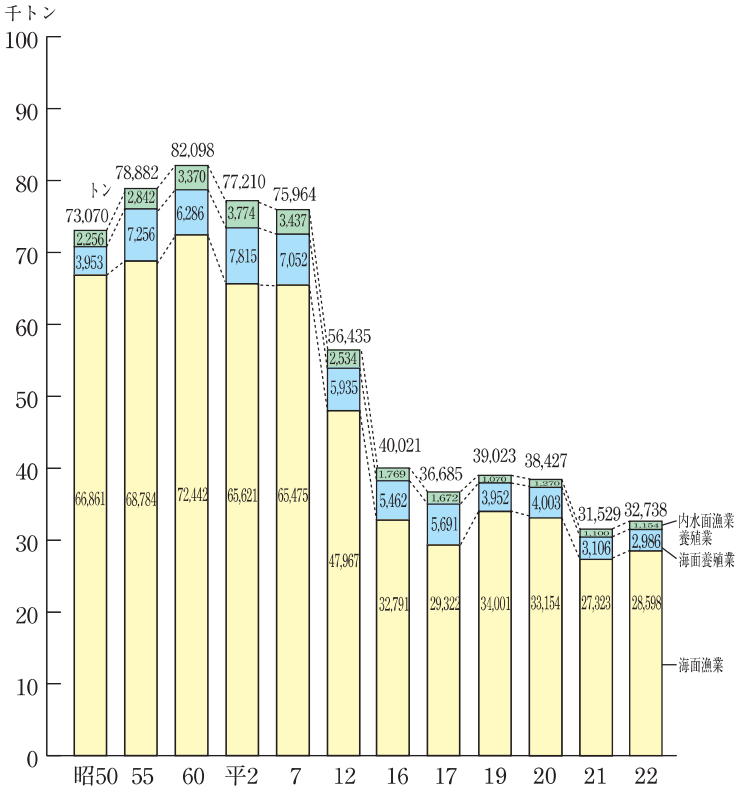
種別	漁港合計	分類の説明
第１種漁港	77	利用範囲が地元の漁業を主とするもの
第２種漁港	11	利用範囲が１種より広く３種に属さないもの
第３種漁港	4	利用範囲が全国的なもの
第４種漁港	2	漁船の避難上特に必要なもの
港合計	94	

3）水産業の生産

漁業・養殖業の生産量は昭和61年の88,108ｔをピークに減少傾向にあり、平成22年は32,738tとなっている。

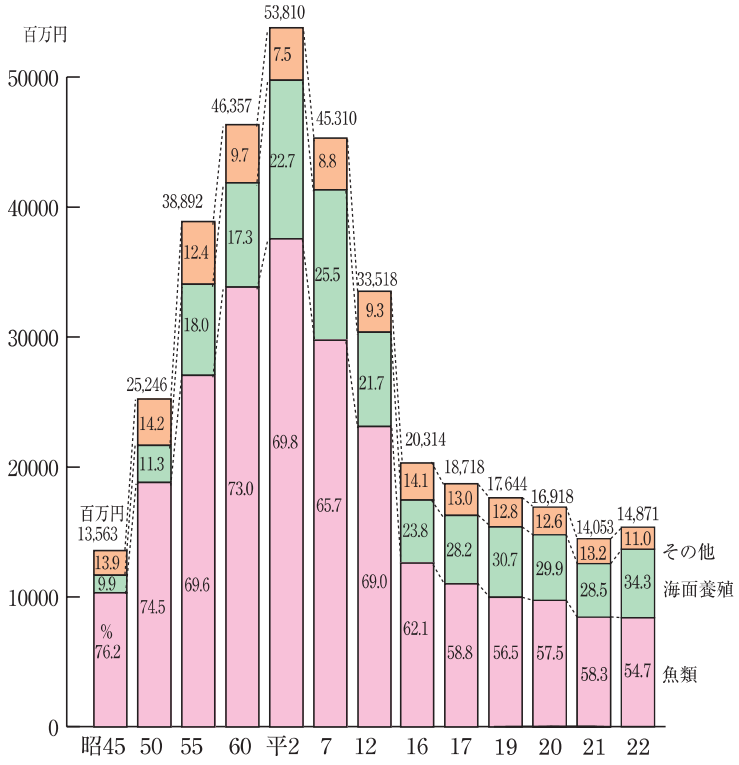
海面漁業・養殖業生産額は平成２年をピークに減少傾向で平成22年は148億71百万円でピーク時の27.6%となっている。

漁業・養殖業部門別生産量の推移



（22年漁業･養殖業生産統計）

海面漁業・養殖業生産額の推移



（農林水産統計年報）

漁　獲　量

〔平22〕(t)	全国 実数	和歌山県 実数	和歌山県 順位	和歌山県 シェア(%)	1位 県名	2位 県名	3位 県名
海面漁業	4,121,038	28,598	27	0.69	北海道	長崎	宮城
魚類	3,164,261	27,117	26	0.85	北海道	長崎	静岡
えび･かに･いか･たこ	358,654	983	34	0.27	北海道	青森	長崎
貝類	407,155	84	38	0.02	北海道	愛知	佐賀
海藻類	97,231	191	20	0.20	北海道	愛知	岩手
海面養殖業	1,111,338	2,986	24	0.27	北海道	宮城	広島

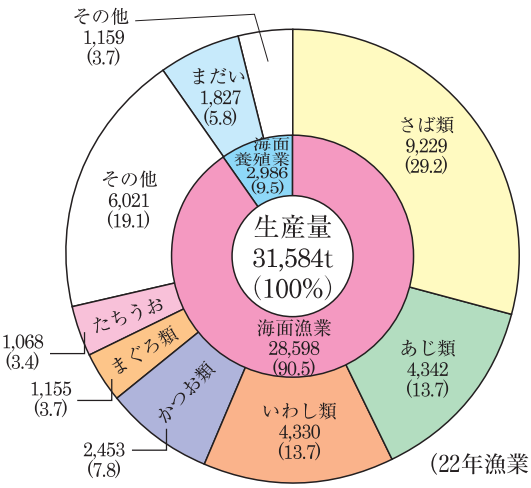
生　産　額

〔平22〕(百万円)	全国 実数	和歌山県 実数	和歌山県 順位	和歌山県 シェア(%)	1位 県名	2位 県名	3位 県名
海面漁業	970,875	9,768	27	1.01	北海道	長崎	静岡
海面養殖業	428,391	5,102	21	1.19	愛媛	鹿児島	北海道

4）主な魚種別漁獲量・生産額の推移

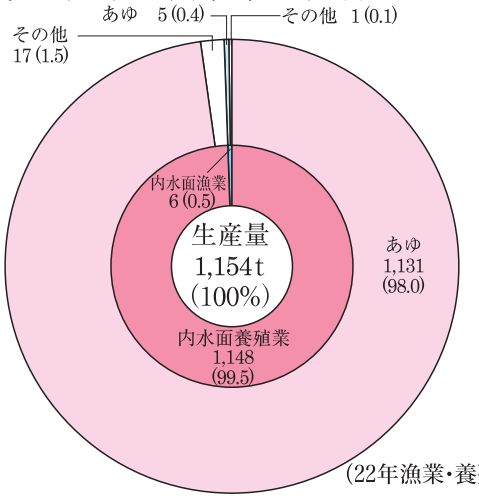
平成22年の魚種別の生産量は、海面漁業では、さば類32.3%、あじ類15.2%、かつお類8.6%、たちうお類3.7%となっている。海面養殖業ではまだいが61.2%を占め、内水面漁業・内水面養殖ではあゆが98.4%となっている。

海面漁業、養殖業魚種別生産量（平22）



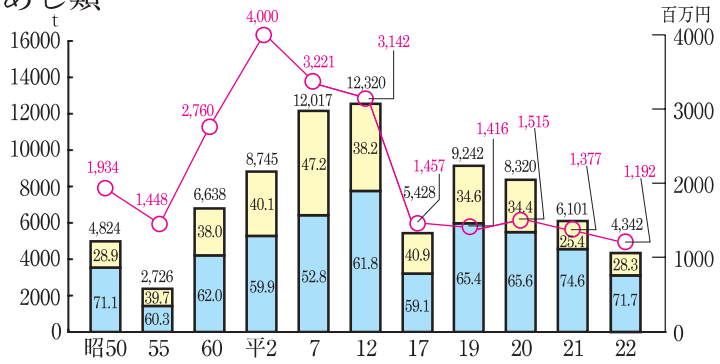
（22年漁業･養殖業生産統計）

内水面漁業、養殖業魚種別生産量（平22）

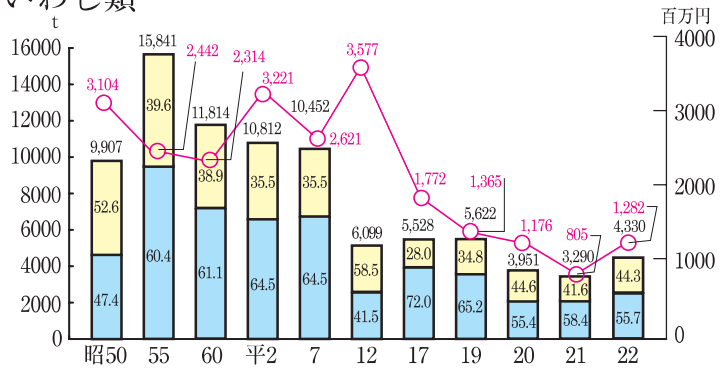


（22年漁業･養殖業生産統計）

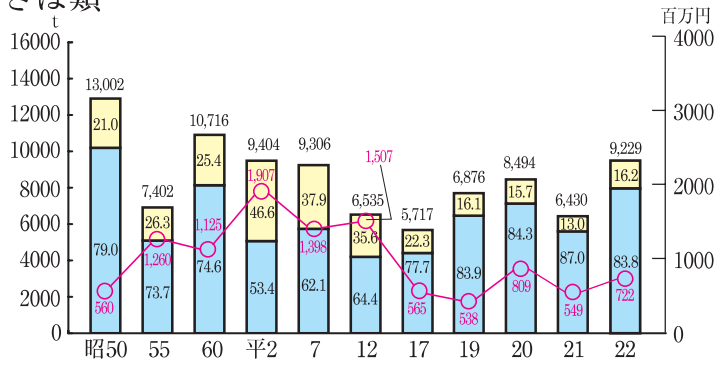
あじ類



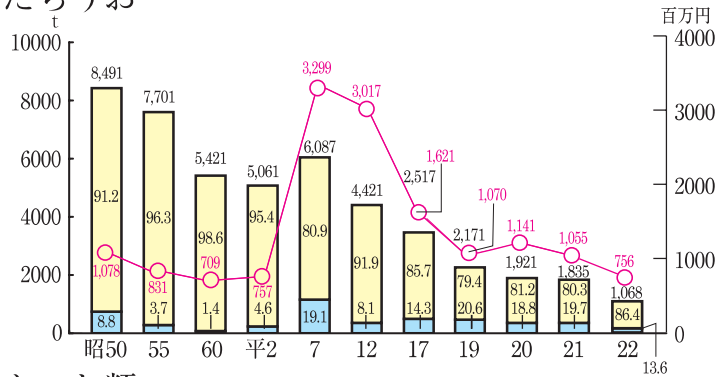
いわし類



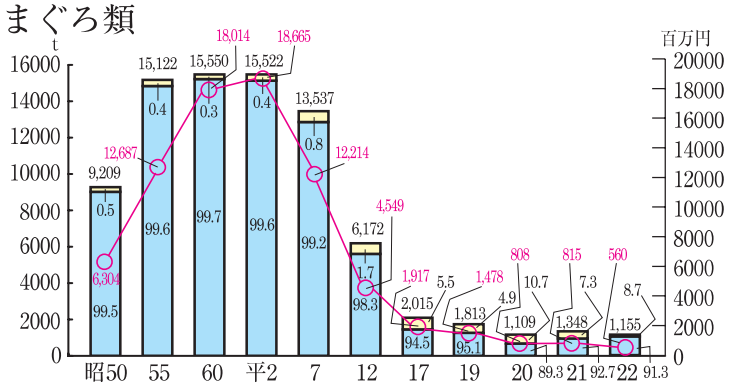
さば類



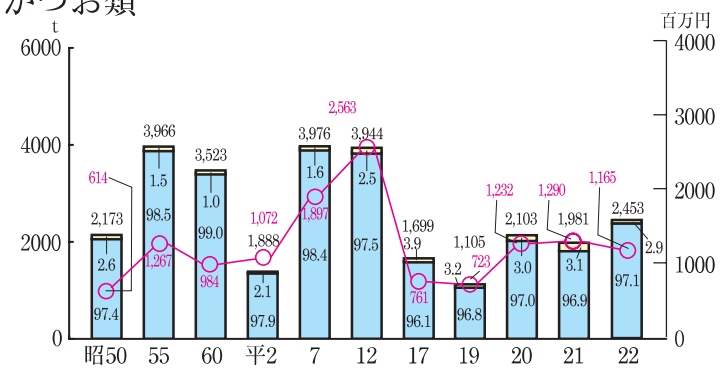
たちうお



まぐろ類



かつお類



漁獲量　瀬戸内海区　太平洋南区　生産金額（百万円）

（農林水産統計年報）

Ⅲ　農林水産関係施策を行っている主な課室

農　林　水　産　部

課　室　名		業　務　概　要	電話番号	メールアドレス
農林水産政策局	農林水産総務課	農林水産業振興施策の総合的企画・調整・検査	073－441－2863	e0701002@pref.wakayama.lg.jp
	工事検査室	農林水産関連の工事検査	073－441－2867	
	研究推進室	農林水産関連試験研究の統括	073－441－2997	e0701003@pref.wakayama.lg.jp
	食品流通課	農産物をはじめとする県産品の販路拡大・流通対策、輸出対策	073－441－2819	e0717001@pref.wakayama.lg.jp
	農業農村整備課	土地改良法関係、施設管理、農業農村整備の計画・調整、農業基盤・農村環境・農地の保全施設等の整備	073－441－2944	e0705002@pref.wakayama.lg.jp
農業生産局	果樹園芸課	農産物の生産振興、農業の構造改善、都市農村交流の推進	073－441－2900	e0703001@pref.wakayama.lg.jp
	農業環境・鳥獣害対策室	環境保全型農業、肥料・農薬の適正使用、鳥獣害対策、適正狩猟の推進	073－441－2905	e0703002@pref.wakayama.lg.jp
	畜産課	畜産業振興のための企画・指導・支援	073－441－2920	e0704001@pref.wakayama.lg.jp
	経営支援課	農協等の指導、金融支援、農業の担い手確保・育成、農地の利活用、農業技術・経営の普及指導	073－441－2880	e0709001@pref.wakayama.lg.jp
森林・林業局	林業振興課	林業振興のための企画・指導、紀州材の需要拡大山村資源の活用、山村地域の生活環境整備	073－441－2960	e0706001@pref.wakayama.lg.jp
	森林整備課	森林の造成・保全、山地災害の防止、森林・緑の活用促進、紀の国森づくり基金の活用	073－441－2972	e0707001@pref.wakayama.lg.jp
水産局	水産振興課	水産業振興のための企画・指導・支援等	073－441－3000	e0710001@pref.wakayama.lg.jp
	資源管理課	水産資源の管理・保護、漁業取締・調整・許可等	073－441－3010	e0715001@pref.wakayama.lg.jp

他部局関係課室

企　画　部

課　室　名		業　務　概　要	電話番号	メールアドレス
地域振興局	過疎対策課	半島地域の振興促進 過疎地域の自立促進 わかやま田舎暮らしの企画・調整 子ども農山漁村交流の企画・調整	073－441－2426	e0222001@pref.wakayama.lg.jp

環　境　生　活　部

課　室　名		業　務　概　要	電話番号	メールアドレス
県民局	食品・生活衛生課	食の安全・安心の確保、生活衛生関係営業指導、動物愛護及び管理の推進、水道の整備及び管理指導	073－441－2635	e0316001@pref.wakayama.lg.jp

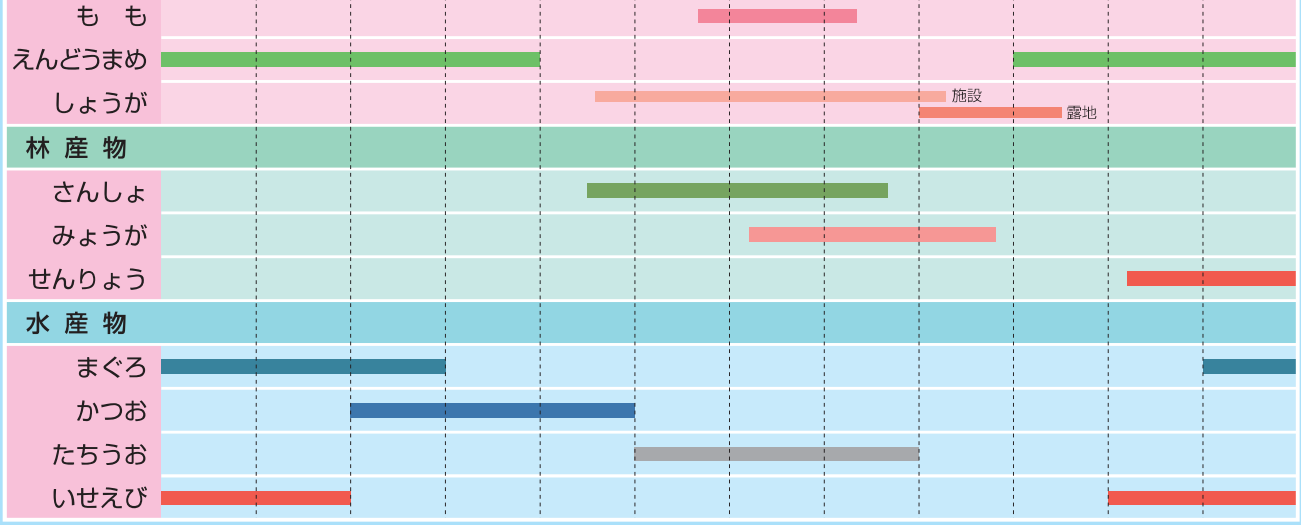
県　土　整　備　部

課　室　名		業　務　概　要	電話番号	メールアドレス
道路局	道路建設課	道路（農林道を含む）の整備	073－441－3097	e0802001@pref.wakayama.lg.jp
河川・下水道局	下水道課	汚水処理施設の整備促進（農業集落排水を含む）	073－441－3203	e0810001@pref.wakayama.lg.jp
港湾空港局	漁港整備室	漁港・漁港海岸の整備、漁村環境の整備	073－441－3023	e0825002@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県の農林水産物


大阪府
奈良県
三重県
たい
キャベツ
ピーマン
はくさい
米
大根
しょうが
にんじん
ほうれん草
たまねぎ
いちじく
みかん
アユ
きく
かき
はっさく
ネーブル
くしがき
かき
たまご
ストック
キウイフルーツ
すもも
かき
しゃくやく
シラス
花木
植木
高冷地野菜
(ほうれん草)
高冷地野菜
(きゅうり・トマト)
いちご
もも
かき
くり
かき
みょうが
びわ
プロイラー
さんしょう
高野まき
びわ
キウイフルーツ
みかん
プロイラー
ネーブル
ししとうがらし
高冷地野菜
(トマト)
くり
ししとうがらし
たちうお
みかん
びわ
アユ
ぶどう
さんしょう
甘夏みかん
カーネーション
おもと
しきみ
きく
きく
はっさく
黒竹
さかき
アユ
しいたけ
アジ
きゅうり
トマト
ホロホロ鳥
備長炭
せんりょう
ゆべし
サバ
きゅうり
はっさく
えんどう
かぼちゃ
ブロッコリー
わさび
しきみ
レタス
きく
すいか
せんりょう
さかき
しいたけ
スターチス
かすみ草
えんどう
きく
うめ
じゃばら
トルコキキョウ
スイートピー
すいか
キャベツ
備長炭
ブロイラー
イセエビ
キャベツ
うめ
和牛
かすみ草
スターチス
うめぼし
みかん
しきみ
さかき
音無茶
ヒロメ
すもも
高冷地野菜
(ししとうがらし)
うめ
みかん
しいたけ
ゆず
レタス
イサキ
アユ
しきみ
いちご
たかな漬
乳牛
川添茶
きく
かすみ草
レタス
うめ
いのぶた
ゆず
いちご
アユ
せんりょう
色川茶
トルコキキョウ
レタス
しきみ
しいたけ
ぽんかん
マグロ
スルメイカ
きく
たい
ストック
きんかん
イセエビ
カツオ
アワビ

和歌山県 農林水産物の旬カレンダー



県の花 うめ



梅はバラ科に属し、古くから紀南地方を中心に栽培されています。2月から3月にかけて美しい花を咲かせ、香りもすばらしく、春を告げる花として親しまれています。

県の鳥 めじろ



メジロ科、日本特有の小鳥で本県に多く、古くから県民に親しまれています。
ウグイス、ヤマガラなどとともに、保護鳥に指定されています。

県の木 うばめがし



ブナ科の常緑樹で、紀南地方に特に多く見られます。高温多湿を好みますが、耐乾性も強く生命力の強い木として知られています。
紀州備長炭の原木です。

県の魚 まぐろ



サバ科に属し、なかでもクロマグロが代表的。
樺太、北海道以南、フィリピンにまで分布し、刺身として極めて美味でトロは有名。
クロマグロは全長3mに達します。

R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用
VEGETABLE OIL INK